

付録 1 1951年1月25日羽田空港におけるダレス特使のステート

メント

“I am happy to be again in Japan on a mission of peace which the President has asked me to pursue in collaboration with General MacArthur”.

“Since I was here the latter part of last June the United Nations General Assembly has held its fifth session which brought to Lake Success many who are deeply interested in a Japanese peace settlement. We took the opportunity to discuss informally many of the problems involved. There was general agreement that there should be a prompt peace settlement. Accordingly I have returned to discuss the situation further at Tokyo for we look upon Japan as a party to be consulted and not as a vanquished nation to be dictated to by the victors.

“The other members of the United States peace mission are: The honorable Earl D. Johnson, Assistant Secretary of the Army; honorable John M. Allison, who has been assigned with the rank of Minister to Tokyo and who will act as my personal deputy; Maj. Gen. Carter B. Magruder who has had long experience with military occupation problems; Mr. John D. Rockefeller III who will concern himself with the field of cultural relations where he is uniquely qualified; Colonel C. Stanton Babcock of the Department of Defense, formerly associated with SCAP and Mr. Robert Fearey of the Department of State who will act as Secretary of the mission.

“Ambassador Sebald will, of course, be intimately associated with our work.

“Our purpose is to find the way shortly to restore to Japan the full exercise of sovereignty and to open to Japan a new era of friendly intercourse with the free people of the world.

“The Japanese people were subject to the hideous nightmare of total war. Then followed the surrender period which placed much authority over Japan in the Supreme Commander of the Allied Powers. Now that second phase is drawing to an end a third phase dawns. It will require the Japanese nation to assume responsibility for its own destiny. This transition will come at a dangerous period and will bring with it the need for decisions in great matters.

“All of this will be the topic of our discussions with Japanese leaders”.

付録 2 1951年1月26日受領した対日講和7原則および議題表

Statement of Principles Regarding a Japanese Peace Treaty

The United States proposes a treaty with Japan which would end the state of war, restore Japanese sovereignty and bring back Japan as an equal in the society of free peoples. As regards specific matters, the treaty would reflect the principles indicated below:

1. Parties. Any or all nations at war with Japan which are willing to make peace on the basis proposed and as may be agreed.

2. United Nations. Membership by Japan would be contemplated.

3. Territory. Japan would (a) recognize the independence of Korea; (b) agree to U.N. trusteeship, with the U.S. as administering authority, of the Ryukyu and Bonin Islands and (c) accept the future decision of the U.K., U.S.S.R., China and U.S. with reference to the status of Formosa, Pescadores, South Sakhalin and the Kuriles. In the event of no decision within a year after the Treaty came into effect, the U.N. General Assembly would decide. Special rights and interests in China would be renounced.

4. Security. The Treaty would contemplate that, pending satisfactory alternative security arrangements such as U.N. assumption of effective responsibility, there would be continuing cooperative responsibility between Japanese facilities and U.S. and perhaps other forces for the maintenance of international peace and security in the Japan area.

5. Political and Commercial Arrangements. Japan would agree to adhere to multilateral treaties dealing with narcotics and fishing. Prewar bilateral treaties could be revived by mutual agreement. Pending the conclusion of new commercial treaties, Japan would extend most-favored nation treatment, subject to normal exceptions.

6. Claims. All parties would waive claims arising out of war acts prior to September 2, 1945, except that (a) the Allied Powers would, in general, hold Japanese property within their territory and (b) Japan would restore allied property or, if not restorable intact, provide yen to compensate for an agreed percentage of lost value.

7. Disputes. Claims disputes would be settled by a special neutral tribunal to be set up by the President of the International Court of Justice. Other disputes would be referred either to diplomatic settlement, or to the International Court of Justice.

対日平和条約に関する原則の声明

合衆国は、戦争状態を終結させ、日本国の主権を回復し、かつ、日本国を自由な人民の社会へ平等なものとして復帰させる日本国との条約を提案する。特定の事項については、条約は、次に示す原則を反映する。

1. 当事国。日本国と交戦関係にあるいずれか、または、すべての国であつて、提案されて合意される基礎において平和を成立させる意思を有するもの。
2. 国際連合。日本国の加盟は考慮される。
3. 領域。日本国は、(a)朝鮮の独立を承認し、(b)合衆国を施政権者とする琉球諸島および小笠原諸島の国際連合信託統治に同意し、かつ、(c)台湾、澎湖諸島、南樺太および千島列島の地位に関しては連合王国、ソヴィエト連邦、中国および合衆国の将来の決定を受諾する。条約が効力を生じた後1年以内に決定がなかつた場合には、国際連合総会が決定する。中国における特殊な権利および利益は、放棄する。
4. 安全保障。条約は、国際連合が実効的責任を負担するというような満足すべき別途の安全保障取極が成立するまで、日本国区域における国際の平和と安全の維持のために、日本国の施設と合衆国の、および、おそらくはその他の軍隊との間に継続的協力的責任が存在することを考慮する。
5. 政治的および通商の取極。日本国は、麻薬および漁業に関する多数国間条約に加入することに同意する。戦前の2国間条約は、相互の合意によつて復活することができる。新しい通商条約の締結まで、日本国は、通常の例外に従うことを条件として、最恵国待遇を与える。
6. 請求権。すべての当事国は、1945年9月2日以前の戦争行為から生ずる請求権を放棄する。ただし、(a)一般に連合国がその地域内にある日本人財産を保有する場合、および(b)日本国が連合国人財産を返還し、または原状で回復できないとき喪失価格の協定された割合を補償するために円を提供する場合を除く。
7. 紛争。請求権に関する紛争は、国際司法裁判所長が設ける特別中立裁判所で解決する。他の紛争は、外交的解決または国際司法裁判所に付託する。

SECRETSuggested Agenda

In addition to discussion of the general principles which should govern the future relation between Japan and the United States, the following specific topics are suggested for detailed discussion:

1. Territorial: How to carry out the Surrender Terms that "Japanese sovereignty shall be limited to the islands of Honshu, Hokkaido, Kyushu, Shikoku and such minor islands as we may determine".

2. Security: How to provide for security following the ending of occupation.

3. Rearmament: What, if any, provisions should restrict Japan's future rearmament.

4. Human rights, etc.: What, if any, undertakings or declarations should be made by Japan in this respect and in relation to occupation reforms.

5. Cultural relations: What, if any, continuing relations can be developed in this respect.

6. International Welfare: To what international conventions dealing with elimination of trade in narcotics, preservation of wildlife, etc. should Japan adhere.

7. Economics: What, if any, provisions should restrict Japan's future economic activities as regards certain industries, e.g. ship building.

8. Trade: What will be the post-war basis of Japan's trade with other countries, e.g. "most-favored-nation".

9. Fisheries: Possible voluntary prohibition of Japanese use of United States conserved fisheries.

10. Reparation and war claims: What should be the treaty provisions in these respects. Japanese gold.

11. Post-war claims: How will Japan deal with Garioa indebtedness.

12. War criminals: Where should reside the future authority over those convicted by war tribunals.

13. Procedure: What should be the future procedure, having regard to the probable attitude of the Soviet Union and the status of China.

議 題 の 提 案

日本と合衆国の将来の関係を律すべき一般原則の討議のほかに、次の特定事項を詳細な討議の議題として提案する。

(112)

1. 領域。「日本国の主権は、本州、北海道、九州、四国及びわれらが決定する諸小島に局限される」との降伏条項をどのように履行するか。
2. 安全保障。占領の終了後における安全保障をどのように規定するか。
3. 再軍備。もし設けるとするならば、どのような規定で日本の将来の再軍備を制限するか。
4. 人権等。この点について、また、占領による改革に関連して、日本は、もしするとすれば、どのような約束又は宣言をするか。
5. 文化関係。この点について、もしあるとすれば、どのような関係を引き続いて発展させることができるか。
6. 国際福祉。麻薬の取引の禁止、天然生物の保存等を取り扱うどのような国際条約に日本は加入するか。
7. 経済。一定の産業に関する日本の将来の経済上の活動、たとえば、造船を、もし設けるとすれば、どのような規定で制限するか。
8. 通商。何をもつて、他国との日本の戦後の通商の基礎とするか。たとえば「最恵国待遇」問題。
9. 漁業。合衆国の保存漁場を日本が使用することの自発的禁止の可能性。
10. 賠償及び戦争に基く請求権。これらの点に関する条約の規定をどのようなものとするか。日本の金。
11. 戦後請求権。日本は、ガリオアの債務をどのように取り扱うか。
12. 戦争犯罪人。軍事裁判所によつて有罪を宣告された人々に対する将来の管轄権はどこに属するか。
13. 手続。ソヴィエト連邦のとりそうな態度と中国の地位を考慮して、将来の手続をどのようなものとするか。

付録 3 1951年1月28日総理に提出した事務当局作成の対処案

— 英文は29日提出 —

一般原則について

- 1 米国が、「戦争状態を終了し、日本の主権を回復し、日本を平等の一員として自由世界に復帰させる」ため対日平和条約を提案したるを多とすること。

(113)

日本は、共産主義勢力に対抗し、民主国家とともに世界の平和と安全の維持に協力する決意である。日本を、民主陣営の頼み効ある一員たらしむるには、日本に完全なる自主性を回復せしめねばならぬ。これがためには、まず講和条約を締結すべきものと信ずるからである。

- 2 米国の提案にかかる 7 原則が政治上も経済上も日本に対して特別の制限を加えざるべきことを明らかにせるは欣幸に堪えざるところである。7 原則のラインに沿う講和条約が 1 日も早く 1 国でも多くの国と締結されることを希望すること。

但し、7 原則のうち 3 の「領土」と 4 の「安全保障」については、再考を得たき点がある。すなわち、前者については、日本の本来の領土である沖縄、小笠原諸島及び千島の分離が日本の国民感情にとり堪えがたきところであること、後者については、安全保障のためのアレンジメントが平等のパートナーとしての国と国との間の協力体制として講和条約とは別個に成立すべきことのふたつである。その詳細は、第 2 部の特定事項に関する部において説明するとおりである。

2 特定事項について

(1) 領 土

- 1 「日本の主権は本州、北海道、九州、四国の島とわれら（連合国）の決定すべき諸小島に限られる」との降伏文書の条項を実施するに当って、日本の関心は、「連合国の決定する諸小島」にある。本来日本の領土であつた諸小島は、すべて日本の保有に残されるよう決定されたいというのが日本人全体の一致した要請であること。
- 2 沖縄、小笠原諸島は、7 原則の 3 によれば、米国の信託統治の下に置かれることが提案されている。米国の軍事上の必要については、いかようにでも応ずる用意がある。（バーミューダ方式による租借も辞しない。）日米両国の永遠の盟邦関係の確立という見地から提案の再考を求むること。
- 3 沖縄及び小笠原諸島の信託統治にどうしても同意せざるを得ない場合には、信託統治が国民感情を最も刺激する点は、これらの諸島が永久に日本の手を離れるのではないかという点にあるので、次のように措置すること。

(4) 信託統治に期限を付すること。

実例として旧イタリア植民地ソマリランドの信託統治期間は 10 年とされ、

その後は独立することになっている。かように信託統治に年限をつけることが一番望ましい。

それがむずかしい場合には、「これらの諸島を信託統治にすることを必要ならしめる事態が存続する期間」信託統治に付し、かような必要の解消した場合には、国連憲章第 76 条（信託統治の基本目的を定めている）(ろ)の規定に従つて、「住民の自由に表明した意思」に従つてこれら諸島の最終的地位を決定すべきことを信託統治協定において明白にする。

これに加えて、信託統治にする必要の解消したる時点にはこれら諸島が日本に返還さるべき保障を協定外の文書で取り付けられれば万全である。

(4) 日本を共同施政者（ジョイント・オーソリティ）とすること。

信託統治地域に対して共同施政者を設けている実例は、ナウル島に対する英、豪及びニュージーランドの共同施政がある。また、旧敵国を施政者とした例は、イタリアのソマリランドに対する施政がある。

日本が米国とともにこれら諸島の共同施政者となれば、諸島の帰属についても、諸島の行政についても、島民に対する権能についても、米国と同等の地位にたつこととなり、わが国民感情を満足せしむるにたろう。（共同施政者という観念は、国務省係官が言及した事実がある。）

（なお、島民の国籍については、憲章に定めた信託統治制度の精神から、施政国の国籍も取得せず、また、国際連合の国籍も取得せず、また、旧領有国の国籍も保有せず、特殊の地位にあつて（先例によると信託統治地域の市民権を有するとされておる）、施政者が地域外において外交上及び領事上の保護を与えることになつておる。従つて、これら諸島の住民に対する日本国籍の保有を要請することは、困難である。）

(4) 上述の 2 点の外、左記の事項について考慮を求むること。

- (1) これら諸島と日本本土との関係をできるだけ従来どおりとすること。なかんずく、双方住民の交通移住は自由とし、関税上も日本の一部として認めること。
- (2) 小笠原諸島、硫黄島の住民であつて、戦争中（日本によつて）及び終戦後（米国によつて）日本本土に引揚げさせられているもの（計 7,711 名）について、原島復帰を許されること。

- 4 千島に対する日本の国民感情は、いうまでもなく日本に保有しておきたいというにある。米国のこの国民感情をとくと考慮にいれて最後まで日本人の願望の達成に努力するよう希望すること。

(2) 安 全 保 障

講和条約が成立すれば軍事占領は終了する。軍事占領の終了後、日本の安全はいかにして保障すべきやの問題に対し、7原則の4は、国際連合が実効的な責任を負うにいたるまで「日本区域における国際の平和と安全の維持のために、日本の施設と合衆国の及びおそらくはその他の軍隊との間に継続的協力的責任が存在すること」を考えておる。

安全保障に関する日本の見解は、次のようである。

1. 日本は、日本区域における国際の平和と安全が、国際連合によつて維持せられることを希望し、これがため、米国の不断努力を継続することを希望すること。
2. 国際連合が前述の責任を実効的に果たしうようになるまで、7原則の4に予想されるごとく日本区域における国際の平和と安全の維持のため、日本は米国と協力体制を取りきめ応分の協力をいたすことに賛成であること。
3. この協力体制は、平等のパートナーとしての国と国との間における安全保障のための協力関係として、講和条約とは別個に成立せしむべきこと。

(3) 再 軍 備

1. 再軍備は、当面の問題としてこれを希望しないこと。

ただし、

(イ) 日本人は、太平洋戦争の苦い経験で、心底から戦争を嫌悪しておる。再軍備論は世論の1部にでていることは事実であるけれども、これらの議論はいまだ問題の本質を究明した上の議論ではないと思う。けれども、それは、必ずしも大衆の感情を表わしているとは思わない。

(ロ) 今日、日本の一番必要とするものは経済の自立であり民生の安定である。日本の経済は、戦後5年半にしてある程度回復した。これすら、米国からの援助に負うところ大である。いまだ基礎ぜい弱であつて、しかも近代的軍備に必要な基礎資源を欠如する日本経済に対して、いま、再軍備の負担が加えられるならば、日本経済は、立ちどころにその重圧の下に崩壊し民生は貧窮化し、そこに、共産陣営の好個の狙である社会不安が醸成されよう。国の安全保障のため

の再軍備は、逆に、国の安全を内部から危殆ならしめるであろう。今日、日本の安全は軍備よりも民生の安定にかかることはるかに大である。

(ハ) 近隣諸国の日本の再侵略に対する危惧は、蔽として存在している。日本は、これらの国民の対日危惧を解かなければならない。のみならず、率直にいえば、内部的にも、旧軍閥の再現の可能性全くなしと断言するを得ない事由がある。従つて、われわれは、国の安全保障を再軍備以外の方途において発見しなければならない。

2. 現今において国際的の平和は国内の治安と直結しているのであり、この意味において国内治安の維持について、完全に独力をもつて対処する責任を果す用意がある。これがため、警察予備隊及び海上保安隊の人員の増強と装備の補強とを早急に実現する要があり、又これが当面のところ日本が日本地域の平和維持のためにフォースにより貢献し得る限度であると共にこれが両国関係の大局から見て最善の途である。
3. 上述の趣旨は日米両国間の友好関係が、何ものにもまして、最も必要であると考えらるからである。

共産陣営の神経戦と滲透戦術に対抗するためには、日米将来の友好関係を増進するためにその基盤を確立することが極めて重要であり、また、ある地域における戦争と軍備の放棄、または、軍備の制限のごとき措置によつて、相互の間の安心感を強むる考案のごときも考慮の価値あるであろう。

(4) 人権その他

1. 日本は、世界人権宣言の趣旨に全面的に賛成であり、その諸原則は、日本国憲法に十分取り入れられている。人権の尊重について宣言することを必要とせられるならば、それに異存はない。
2. 占領管理下に民主的改革のために樹立された諸制度をそのまま永久化することになるような規定を平和条約に設けることは、避けたい。

(5) 文 化

日本は国際の文化交流に積極的に協力しうることを熱望する。また特に米国との文化関係の緊密化は、両国親善の根本問題であるから、文化的提携を増進するようあらゆる措置をとりたい。

(6) 国 際 保 健

従来、日本が当事国であるこの分野における各種の国際条約のほか、戦争中及び戦後締結せられた条約たとえば国際保健機関憲章、国際捕鯨取締条約、国際衛生条約等に参加しその義務を忠実に履行する。

(7) 経 済

特定産業に対する制限を設けないこと。

日本が民主的独立国家として立つて行くためには、経済の安定、自立が不可欠の要件である。

狭あいにして資源の乏しい領土に膨大な人口を擁する日本は、加工貿易、すなわち、工業生産力の活用によつてのみ自立しうるのである。しかも日本は、工業生産力の活用によつて、東亜諸地域の経済振興、ひいては民主主義世界全般の経済発展に積極的に寄与しうると信じ、又これを熱望しているものである。

しかるに日本の非軍事化、ないしは軍事力の制限のために、いわゆる軍事産業として特定産業に対して制限を課せられるがごときことがあれば、軍事産業と平和産業とが具体的には重複しており、事実上平和産業に対して制限を加えられることになるので、日本の経済自立に多大の支障を与えることになる。たとえば、造船業についていえば、通商を生命とする日本にとつては、船腹の確保は不可欠の要件であるから、軍事力に転用しうるとの理由で、船舶保有量、船型、速力又は造船能力を制限されることは、重大なる制約となる。

その他、製鉄、軽金属、金属加工機械、石油精製、人造ゴム、人造石油等についての制限も、事実上平和産業に対する制限となつて、日本経済に与える打撃は多大である。しかも資源に乏しく、原料はほとんど他国より仰がねばならぬ日本に対しては、軍事力再興は、容易に阻止しうるわけである。

又日本の国際通商における競争を制限するために、特定産業を制限されるがごときことは、フェア・トレードの精神よりしてもあり得ないことと信ずる。

(8) 通 商

1. 日本の経済自立がかかつて貿易にあり、又日本は、貿易を通じて世界の経済繁栄に寄与せんとしているものであるから、いずれの国とも相互に最恵国待遇を与えあい、互恵に基く通商関係がすみやかに確立されんことを切望する。

2. 又通商航海条約締結前にあつても、最恵国待遇を日本と講和条約締結国との間に相互に与えあうことが講和条約に明記されることを望む。

3. 進んで通商の促進、通商上における対等、緊密なる関係を設定するための国際条約（特に、国際通貨基金、国際復興開発銀行、貿易関税一般協定）への参加を熱望する。

(9) 漁 業

- (1) 漁業に関しては、公海における漁業の自由という国際法の原則にのつとり、普通の主権国に課せられることのない特別の制限を課せられることのないことを期待する。
- (2) 日本は、国際法、国際条約及び国際漁業慣習を厳格に遵守し、且つ漁業資源の保護及び資源の調査のための国際的企図に誠実に協力する。
- (3) 如上の原則に従い日本は、鯨、オットセイ、ハリバット、鮭、マダロ等の漁業資源の保護又は調査のための既存国際条約に協力するとともに、特に米国の関心をもつ漁業資源の保護について、具体的に話し合いをする用意がある。

(10) 賠償並びに戦争に基く請求権

1. 賠 償

工業は日本経済自立の支柱であるので、工業施設による賠償については、すでに撤去済の施設以上に取立てが行われないよう切望する。

生産物賠償又は金銭賠償については、終戦後米国より巨額の援助を受けてしかもなお戦前の国民生活水準の恢復にも到達し得ない日本経済に対して背負い切れない重圧となり、経済復興を長く不可能ならしめるものであるから、かようなことがないことを望む。

2. 在 外 資 産

連合国中現実には日本と戦闘行為に入つた諸国にある日本の在外財産は、これを当該国において抑え、留置し、清算して、日本に対する請求権の範囲内で自由に処分され、残余があれば日本に返却されることに異議はない。

単に宣戦を布告するに止つた諸国については、日本の在外資産は、返却されることを要望する。

なお、連合国によつて処分された日本の在外財産の所有者に対する日本政府の補償については、膨大な補償が日本の経済復興に大なる支障を与えることにかんがみ、日

本政府の処置に任すこととし、特に条約により義務付けられないように希望する。

3. りやく奪財産及び在日連合国財産

これらについては、占領期間中すでに返還しているので、講和条約成立とともに、一切の請求権は打切ることとされたい。

4. 日 本 の 金

これについては、りやく奪財産等当然返還又は引渡すべき金は、すでに返却しているので、現にイムパウンドされているものは、日本に返却されることを要望する。

(11) 戦 後 債 務

日本は債務については、でき得る限りこれを返済したいと考えているが、日本の経済復興については充分に考慮願いたい。

(12) 戦 争 犯 罪 人

左記を懇請する。

1. 新しい訴追を打切ること。
2. 平和条約の成立の機会に、連合国において戦争犯罪人に対して大赦の措置を執ること。
3. 戦争犯罪人に対する刑の執行は、日本側に一任すること。

(在内地受刑者 1 3 7 8 名、同未決 2 名、在外受刑者 7 5 9 名、同未決 3 6 名一昭和 2 6 年 1 月 1 日現在)

(13) 手 続

対日講和を今後いかなる手続にて推進すべきかは、主として、連合国間の問題であるが、日本の希望するところは、次のようである。

- (イ) 日本は、1 日も早く 1 国とでも多くの国と講和条約を締結したい。
- (ロ) 従つて、手続の故に条約の締結が延引するがごときこと及び参加国を多くするために、日本の発展を阻害するような内容のものとなすことは、回避されたい。

(付録 3 の英文)

Principles Regarding a Japanese Peace Treaty

1. We are glad that the United States Government proposes a treaty, "which would end the state of war, restore Japanese sovereignty and bring back Japan as an equal in the society of free peoples."

(120)

We are determined to cooperate with all democratic peoples, in combating communism and preserving world peace and security. And we believe that the conclusion of a peace treaty is of the prime necessity in order that Japan may recover full independence and play a positive and effective role as a member of the democratic camp.

2. It is most gratifying that under the proposed 7 principles the United States does not envisage imposing any restriction, either political or economic, on Japan. We hope a peace treaty in line with these principles will be concluded as soon as possible and with as many countries as possible.

However, there are certain points we should like to have reconsidered with respect to territory (3) and security (4). Detachment of our home territories, such as the Ryukyu, Bonin Islands and the Kuriles, is unbearable to Japanese national sentiments. As for any security arrangement, we feel it should be established apart from the peace treaty and with Japan as an equal partner. These points are discussed fully under "Suggested Agenda."

Suggested Agenda

I. Territorial

1. The Instrument of Surrender stipulates: "Japanese sovereignty shall be limited to the islands of Honshu, Hokkaido, Kyushu, Shikoku and such minor islands as we determine." It is the unanimous desire of the nation that all minor islands which have been always Japanese territory will be left in the possession of Japan.

2. Now it is proposed that the Ryukyu and Bonin Islands be placed under U.N. trusteeship with the United States as administering authority. While Japan is ready to meet in any manner American military requirements, we solicit reconsideration of this proposal in the interest of lasting friendly relations between Japan and the United States.

3. In case trusteeship is deemed indispensable, we would suggest the following measures to dispel the fear of permanent detachment of these islands from Japan—a fear which is uppermost in the minds of the Japanese people.

(a) To fix a period for trusteeship.

It is desired that a definite period be set for the Ryukyu and Bonin trusteeship.

In case that is not feasible, it might be provided that the trusteeship be maintained as long as the situation necessitating trusteeship for the islands continues, with a stipulation that with the passing of such necessity the final status shall be determined "according to the freely expressed wishes of the peoples concerned" (U N Charter, Article 76, b).

(121)

It might be even better if a written undertaking outside the trustee agreement were provided to the effect that these islands shall be returned to Japan upon the termination of the trusteeship.

(b) To appoint Japan a joint authority.

It is desired that Japan be made a joint authority together with the United States.

(c) Besides the above-mentioned two points, consideration is requested of the following matters.

i. It is hoped that these islands and their relations with Japan will be allowed to remain as before so far as is possible, especially with respect to the mutual freedom of travel and residence and the uniformity of customs tariff.

ii. Those inhabitants of the Bonin Islands and Iwojima who were evacuated to Japan proper, either during the war by Japanese authorities, or after the war's end by U.S. authorities, who number about 8,000, will be permitted to return to their respective home islands.

4. Japanese national sentiments concerning the Kuriles call, needless to say, for the retention of the archipelago. It is hoped that the American Government will give sympathetic consideration to this national aspiration.

II. Security

As regards the question of Japan's security after the termination of military occupation, it is proposed under 4 that pending the assumption of effective responsibility by the United Nations there shall be "continuing cooperative responsibility between Japanese facilities and United States and perhaps other forces for the maintenance of international peace and security in the Japan area."

The views of the Japanese government on security are as follows.

1. Japan desires the maintenance by the United Nations of the international peace and security in the Japan area, and hopes that America will continue her efforts toward the realization of that end.

2. Until such time as when the United Nations can effectively assume the above-mentioned responsibility, Japan is ready to make an arrangement for cooperation with the United States and contribute her share toward the maintenance of international peace and security in the Japan area.

3. This arrangement should be made apart from the peace treaty as providing for cooperative relation between the two nations as equal partners.

III. Rearmament

1. The Japanese Government does not for the present desire rearmament for the reasons as follows.

(a) The Japanese peoples, after the bitter experience of the Pacific War, abhor all wars. True, there are Japanese who advocate rearmament. But their arguments are not founded on a thorough study of the problem, nor do they necessarily represent the sentiment of the masses.

(b) What Japan needs most today is economic self-support and stabilization of people's livelihood. Japanese economy, which has achieved a substantial degree of recovery, thanks to American aid, is still shaky at the foundation. Japan lacks basic resources required for modern armament. The burden of rearmament would immediately crush our national economy, and impoverish our people, breeding social unrest, which is exactly what the Communists want. Rearmament, intended to serve the purposes of security, would on the contrary endanger the nation's security from within. Today Japan's security depends far more on the stabilization of people's livelihood than on armament.

(c) It is a solemn fact that our neighbor nations fear the recurrence of Japanese aggression. And we have every reason for exercising caution against the possibility of the reappearance of old militarism. We should rather seek other means than rearmament for maintaining the country's security.

2. Nowadays international peace is directly tied up with internal peace and order. In this sense, we must preserve domestic peace, for which we are determined to assume full responsibility by ourselves alone. For this purpose, it will be necessary for us to increase the numbers of our police and maritime security personnel and reinforce their equipment. This would mark for the present the limit of our contribution of physical force to the maintenance of peace in the Japan area. And it is believed that will be the best and most practical thing for the security of the Pacific from a broad viewpoint.

IV. Human rights, etc.

1. Japan supports without reservation the Universal Declaration of Human Rights. The various principles set forth in that declaration are fully embodied in our new constitution. If you should deem it necessary for Japan to make a declaration on this matter, we have no objection.

2. It is hoped that the treaty will avoid any stipulation calculated to perpetuate as they are the various reforms effected under the Occupation.

V. Cultural Relations

It is our fervent wish to be allowed to take a positive part in the cultural interchange between nations. The strengthening of cultural ties between Japan and the United States is a fundamental question that concerns the Japanese-American friendship. We would like to take all possible measures to promote cultural cooperation between the two countries.

VI. International Welfare

Japan will observe faithfully all the prewar international agreements in this field, to which she is a party. We are also ready to adhere to other agreements made during and after the war, such as the Constitution of World Health Organization and the International Sanitary Convention.

VII. Economics

If for the sake of demilitarization or for elimination of war potential certain industries were to be designated as war industries and subjected to restriction, it would mean penalizing peace industries, and seriously hampering the progress of Japanese economy toward self-support. Take shipping, for example. To Japan as a trading nation, it is essential to possess an adequate tonnage. If on the ground that ships can be turned to war use Japan were to be restricted in bottoms, type and speed of vassels, or the ship-building capacity, her peaceful commerce would suffer disastrously. Likewise any restrictions on the manufacture of steel, light metals, synthetic rubber or oil, etc., would mean restrictions on peace industries. Japan has few domestic resources, and relies on imports for the supply of almost all vital raw materials. It would be easy to prevent her rearming without resorting to restrictions on her industries.

Again it would be incompatible with the principle of fair trade to restrict certain industries with a view to checking Japanese competition in international commerce.

VIII. Trade

1. Japan lives on trade. It is through trade that she can best contribute to world prosperity. It is earnestly desired to establish speedily with all countries trade relations based on reciprocity and on mutual extension of the most favored nation's treatment.
2. It is hoped that the peace treaty will expressly provide for this mutual extension of the most favored nation's treatment between Japan and a coun-

try concluding peace with her even prior to the signing of a treaty of commerce and navigation between them.

3. Furthermore, we desire to participate in such international organizations and treaties for promoting trade and establishing non-discriminatory and intimate trade relations as the International Monetary Fund, the World Bank and the General Agreement for Trade and Tariff.

IX. Fisheries

1. Freedom of fishing on the high sea being a recognized principle of international law, we expect that Japan will not be subjected to special restrictions such as are not imposed upon sovereign states.
2. Japan will scrupulously observe all international law, international agreements and usages; she will cooperate wholeheartedly in all international undertakings and programs for the conservation and investigation of fishery resources.
3. Accordingly Japan will cooperate in the execution of the existing international agreements on the protection and investigation of the fishery resources including whales, seals, halibut, salmon and tuna. With respect to United States conserved fisheries, we are prepared to reach a concrete understanding.

X. Reparations and war claims

1. It is desired that no industrial facilities will be taken away for reparation beyond those which have already been removed; and no reparations from current production or in money will be demanded inasmuch as Japan, despite the enormous American aid, is still unable to regain her prewar living standard.
2. Japanese overseas assets.

We have no objection in principle to the plan that those of the Allied Powers, who actually engaged in hostilities with Japan, hold Japanese assets within their territory and dispose of them within the scope of their claims against Japan, and that they return to us the balance, if any.

It is hoped, however, those countries which merely declared war on Japan will return Japanese property in their territory.

Finally, as regards the compensations to be paid by the Japanese government to the owners of the Japanese foreign assets disposed of by the Allied Powers, it is desired that the treaty will contain no specific stipulations but leave the matter entirely to the Japanese government, since the payment

of huge compensations would interfere with the country's economic reconstruction.

3. Looted property and Allied assets in Japan.

These items have already been restituted under the occupation. It is desired that the conclusion of peace will put an end to all claims.

4. Japanese gold abroad.

Gold requiring restitution or transfer have all been delivered. It is hoped the gold being still impounded will be turned over to Japan.

XI. Postwar claims

It is the desire of the Japanese government to liquidate all postwar indebtedness as much as possible. But we hope consideration will be given to the needs of Japan's economic rehabilitation program.

XII. War criminals

We request the following:

1. No more new arraignments.
2. An amnesty on the occasion of the conclusion of the peace treaty.
3. Transfer to Japanese authorities the execution of sentences.

Note: As of January 1, 1951

there were 1,378 war criminals serving prison terms and 2 on trial in Japan, while overseas 759 were in prison and 36 on trial.

XIII. Procedure

What procedure is to be adopted for effecting a peace settlement is, of course, a question for the Allied Powers. But Japanese wishes are as follows.

1. We want to conclude peace as soon as possible and with as many countries as possible.
2. We hope that there will be no delay in the making of the treaty for procedural reasons; and that the substance of the treaty will not be sacrificed for the sake of winning more adherents.

付録 4 事務当局作成の「対処案」改訂版

— 1951・1・29 —

1 般 原 則

- 1 日本は、米国が「戦争状態を終了し、日本の主権を回復し、日本を平等の一員として自由世界に復帰させる」ため対日平和条約を提案したるを多とする。

日本は、共産主義勢力に対抗し、民主国家とともに世界の平和と安全の維持に協力する決意である。日本が完全なる自主性を回復し、民主陣営の頼み効ある一員たるためには、平和条約を締結することが喫緊事である。

- 2 米国の提案にかかる 7 原則が政治上も経済上も日本に対して制限を加えざるべきことを明らかにせるは欣幸に堪えない。7 原則のラインに沿う平和条約が 1 日も早く 1 国でも多くの国と締結されることを希望する。しかして、日本の希望するところは、平和条約によつて、日米両国間に恒久的な友好関係の基礎が確立されることであつて、この見地から、7 原則のうちのあるものについては再考を得たき点がある。その詳細は、特定事項に関する部において説明するところである。

2 特定事項について

(1) 領 土

- 1 「日本の主権は本州、北海道、九州、四国の島とわれら（連合国）の決定すべき諸小島に限られる」との降伏文書の条項を実施されるに当つて、日本の関心は、「われら（連合国）の決定する諸小島」にある。本来日本の領土であつた諸小島は、すべて日本の保有に残されるよう決定されたいというのが日本人全体の一致した要請である。
- 2 沖縄、小笠原諸島は、7 原則の 3 によれば、米国の信託統治の下に置かれることが提案されている。米国の軍事上の必要については、いかにいふまでも、応ずる用意がある。日米両国の永遠の盟邦関係の確立という大局の見地から提案の再考を切に望みたい。
- 3 沖縄及び小笠原諸島の信託統治を、どうしても必要とされる場合には、信託統治が国民感情を最も刺戟する点は、これらの諸島が永久に日本の手を離れるのではないかというところにあるので、次の諸項を考慮されたい。

- (イ) これらの諸島を信託統治にする必要が解消した暁にはこれら諸島が日本に返還さるべきものと期待する。この点について何らかの保証を与えられれば幸甚である。
- (ロ) 日本を共同施政者（ジョイント・オーソリディ）とされることを提言したい。
- (ハ) 島民の地位について、島民の熱望もあり、日本の国籍を保有せしめたい。
- (ニ) この際、特に即時実施方懇請したきことがある。すなわち、小笠原諸島、硫黄島の住民であつて、戦争中（日本によつて）及び終戦後（米国によつて）日本本土に引揚げさせられているもの（計約 8, 000 名）について、原島復帰を許されたい。

(2) 安 全 保 障

軍事占領の終了後における日本の安全の問題に関し、7原則の4は、国際連合が実効的な責任を負うにいたるまで、「日本区域における国際の平和と安全の維持のために、日本の施設と合衆国の及びおそらくはその他の軍隊との間に継続的協力的責任が存在すること」を考えておる。

安全保障に関する日本の見解は、次のようである。

日本の安全は、日本人自からによつて守られなければならない。しかしながら敗戦後の日本は、不幸にして、自己のみに依存するを得ない状態にある。したがつて、

- 1 日本は、日本区域における国際の平和と安全が、国際連合によつて維持せられることを希望し、これがため、米国が不断的努力を継続することを希望する。
- 2 国際連合が前述の責任を実効的に果しうるようになるまで、日本区域における国際の平和と安全の維持のため、日本は米国と協力体制を取りきめ応分の協力をなす用意がある。
- 3 この協力体制は、平等のパートナーとしての国と国との間における安全保障のための協力関係として、平和条約とは別個に成立せしむべきである。

(3) 再 軍 備

- 1 日本は、当面の問題として再軍備を希望しない。ただし、
 - (イ) 日本人は、太平洋戦争の苦い経験で、心底から戦争を嫌悪しておる。再軍備論は世論の一部にでていることは事実であるけれども、これらの議論はいまだ問題の本質を究明した上の議論ではない。また、必ずしも大衆の感情を表わしているとは思われない。

- (ロ) 今日、日本の最も必要とするものは経済の自立であり民生の安定である。日本の経済は、戦後5年半にして相当回復した。これすら、米国からの援助に負うところ太である。いまだ基礎ぜい弱であつて、しかも近代的軍備に必要な基礎資源を欠如する日本経済に対して、いま、再軍備の負担が加えられるならば、日本経済は、立ちどころにその重圧の下に崩壊し民生は貧窮化し、そこに、共產陣営の好個の餌である社会不安が醸成されよう。国の安全保障のための再軍備は、逆に、国の安全を内部から危殆ならしめるであろう。今日、日本の安全は軍備よりも民生の安定にかかるとはるかに大である。

- (ハ) 対外的には、日本の軍国主義の再現を恐れる諸国がある。国内的には、そのような恐怖を強めるがごときことを回避すべき十分な事由がある。従つて、国の安全保障を再軍備以外の方途において発見しなければならない。

- 2 現在、国際的の平和は国内の治安と直結しているのであり、この意味において、日本は、国内治安の維持について、完全に独力をもつて対処する責任を果す用意がある。これがため、警察予備隊及び海上保安隊の人員の増強と装備の補強とを早急に実現する要がある。また、これが当面のところ日本区域における平和維持のためにフィジカル・フォースにより貢献し得る限度である。と共に、大局から見て太平洋の安全にとり最善の途であると信ずる。

- 3 上述したところは、ひとえに、太平洋の安全維持という大局の見地と、現在の日本にとり何ものにもまして必要である日米両国の友好関係の確立という目的からでたもので、問題解決の最善の道であると信ずる。

(4) 人権その他

- 1 日本は、世界人権宣言の趣旨に全面的に賛成であり、その諸原則は、日本国憲法に十分取り入れられている。人権の尊重について宣言することを必要とせられるならば、それに異存はない。
- 2 占領管理下に民主的改革のために樹立された諸制度をそのまま恒久化することになるような規定を平和条約に設けることは、避けられたい。

占領管理の間に執られた諸措置又は諸制度改革のうち、もつぱら占領管理の必要から執られたもの、又は日本の実情にそわないものについては、占領の終了前その改廃のため必要な措置を連合国において執ることを考慮ありたい。そうすることが、日本

の占領管理から平常事態への移行を円滑ならしめるゆえんである。

(5) 文 化

日本は、国際の文化交流に積極的に協力しうることを熱望する。また、特に、米国との文化関係の緊密化は、両国親善の根本問題であるから、文化的提携を増進するようあらゆる措置をとりたい。

(6) 国 際 福 祉

従来から日本が当事国であるこの分野における各種の国際条約のほか、戦争中及び戦後締結された条約たとえば国際保健機関憲章、国際捕鯨取締条約、国際衛生条約等に参加し、その義務を忠実に履行して、国際福祉の増進に寄与したい。

(7) 経 済

日本は、経済上なんらの制限をも設けないことを希望する。

日本が民主的独立国家として立つて行くためには、経済の自立と安定が不可欠の要件である。

狭あいにして資源の乏しい領土に膨大な人口を擁する日本は、加工貿易、すなわち、工業生産力の活用によつてのみ自立しうる。しかも、日本は、工業生産力の活用によつて、東亜諸地域の経済振興、ひいては民主世界全般の経済発展に積極的に寄与すると信じ、また、これを熱望する。

しかるに、日本の非軍事化ないし軍事力の制限のために、いわゆる軍事産業として特定産業に対して制限を課せられるがごときことがあれば、事実上平和産業に対して制限を加えられることになり、日本の経済自立に多大の支障を与えるであろう。たとえば、造船業についていえば、通商を生命とする日本にとっては、船腹の確保は不可欠の要件であるから、軍事力に転用しうるとの理由で、船舶保有量、船型、速力または造船能力を制限されることは、日本の平和的経済活動に対する重大なる制約となる。

その他、製鉄、軽金属、金属加工機械、石油精製、人造ゴム、人造石油等についても同ようである。

また、日本の国際通商における競争を制限するために、特定産業を制限されるがごときことは、フェア・トレードの精神よりしてもあり得ないことと信ずる。

(8) 通 商

1. 日本の経済自立がかかつて貿易にあり、又日本は、貿易を通じて世界の経済繁栄に

寄与せんとしているものであるから、いずれの国とも相互に最恵国待遇を与えあい、互恵に基く通商関係がすみやかに確立されることを切望する。

2. 又、通商航海条約締結前にあつても、最恵国待遇を日本と平和条約締結国との間に相互に与えあうことが平和条約に明記されることを望む。

3. 進んで通商の促進、通商上における対等、緊密なる関係を設定するための国際条約（特に、国際通貨基金、国際復興開発銀行、貿易関税一般協定）への参加を熱望する。

(9) 漁 業

(1) 公海における漁業の自由という国際法の原則にのっとり、普通の主権国に課せられない特別の制限を課せられないことを期待する。

(2) 日本は、国際法、国際条約及び国際漁業慣習を厳格に遵守し、且つ漁業資源の保護及び資源の調査のための国際的企図に誠実に協力する。

(3) 如上の原則に従い日本は、鯨、オットセイ、ハリバット、鮭、マグロ等の漁業資源の保護又は調査のための既存国際条約に協力するとともに、特に米国の関心をもつ漁業資源の保護について、具体的に了解をとげる用意がある。

(10) 賠償及び戦争に基く請求権

1. 賠 償

工業施設による賠償については、すでに撤去済の施設以上に取立てが行われないよう切望する。

生産物賠償または金銭賠償については、終戦後米国より巨額の援助を受けてしかもなお戦前の国民生活水準の恢復にも到達し得ない日本経済に対して背負い切れない重圧となり、経済復興を長く不可能ならしめるものであるから、かようなことがないことを望む。

2. 在 外 資 産

連合国中現実には日本と戦闘行為に入つた諸国にある日本の在外資産は、これを当該国において日本に対する請求権の範囲内で処分されることに、賠償が打ち切りとなることを前提として、異議を言い得る立場にはない。しかし私有財産については、できれば特別な考慮を払われることを懇請したい。

単に宣戦を布告するに止つた諸国については、日本の在外資産は、当然返却されることを期待する。

なお、連合国によつて処分された日本の在外資産の所有者に対する補償については、日本の財政に重大なる影響を及ぼす問題であるので、日本政府の裁量に一任されることを希望する。

3. りやく奪財産及び在日連合国財産

- (イ) りやく奪財産は、すでに返還済みであるので、平和条約でそのことを確認されたい。
- (ロ) 在日連合国財産については、平和条約締結後に返還を完了し条約でそのことを確認することとしたい。

4. 日 本 の 金

りやく奪財産及び他国政府のためイヤマークされていたものの如き当然返還または引渡すべき金は、すでに返却済みである。現に連合国の命により保管されているものは、日本に返還されるよう懇請したい。

(1) 戦 後 債 務

日本は、債務については、返済したいと考えている。しかし、日本の経済復興については充分に考慮願いたい。

(2) 戦争犯罪人

左記を懇請する。

1. 新しい訴追をしないこと。
2. 平和条約の成立の機会に、連合国において戦争犯罪人に対して大赦の措置を執られること。
3. 戦争犯罪人に対する刑の執行は、日本に一任すること。

(在内地受刑者 1378 名、同未決 2 名、在外受刑者 759 名、同未決 36 名一昭和 26 年 1 月 1 日現在)

(3) 手 続

対日講和を今後いかなる手続で推進すべきかは、主として、連合国間の問題であるが、日本の希望するところは、次のようである。

- (イ) 日本は、1 日も早く 1 国とでも多くの国と平和条約を締結したい。
- (ロ) 従つて、手続の故に条約の締結が延引するがごときこと及び参加国を多くするために日本の発展を阻害するような内容のものとなすことは、回避されたい。

付録 5 1951 年 1 月 29 日午後の総理ダレス第 1 次会談メモ

1 月 29 日午後 4 時三井本館で総理とダレス大使と会談せらる。会談の内容左のとおり (総理より伺つたところをメモにしたるもの)

ダレス大使いうには、3 年前条約ができれば、日本にとって今日とはよほど悪条件のものできたろう。今日われわれは勝者の敗者に対する平和条約を作ろうとしているのではない。友邦として条約を考えている。

総理より、講和問題について自分の考えているところは昨年 5 月申したところと、今も変りない。日本は、アムール・プロプル (自尊心) をきずつけられずして承諾できるような条約を作つてもらいたい。平和条約によつて独立を回復したい。日本の民主化を確立したい。セルフ・サポートの国になりたい。かよになつた上で、日本は自由世界の強化に協力したいのであり、また日本にとって一番大事な点である日米間における強固な友好関係の確立も可能になると思う。要するに、日本が自由世界の強化に寄与できる国となり、また、日米間に強固な友好関係を打ちたて得るような平和条約を締結したい。

占領中に日本が要請されて実施した各般の改革の如きも随分日本の実情を無視し、また、日本の自立を阻害しているものがある (民法における家族制度の廃止の如き、事業者団体の活動や労働関係の法制の如き)。これらは、占領軍が日本にいる間に占領軍の手で実情に即するよう改廃されることを希望するもの、上述のふたつの目的にできるものである。この要請をマ元帥にだして措置してもらつてもよい。

との趣旨を答えたるに、ダレス大使は、

それは、そうであろうが、日本は独立回復ばかりを口にする。独立を回復して自由世界の一員となろうとする以上、日本は、自由世界の強化にいかなる貢献をなそうとするのか。今、米国は世界の自由のために戦っている。自由世界の一員たるべき日本は、この戦にいかなる貢献をなさんとするか。

と反問す。

いかなる貢献をなすかといわれるが、日本に再軍備の意ありやを知られたいのであろう。今日の日本はまず独立を回復したい一心であつて、どんな協力をいたすかの質問は過早である。自主独立の国になれるかどうか、今、問題であつて、それが実現をみた

後で初めて、日本がどんな寄与をなせるか、なす心算であるか答えられるのである。再軍備は日本の自立経済を不能にする。対外的にも、日本の再侵略に対する危惧がある。内部的にも軍閥再現の可能性が残っている。再軍備は問題である。ふたつの世界が対立抗争しておる世界において米国は日本を広い意味で米国圏内のうちにインコーポレートして考えてもらいたい。

と答え、ダレス大使甚だ不興な気色を示す。マ元帥にふたりで挨拶にゆく時間となつて、総司令部に行く。

総理より、マ元帥に対し、

今、ダレス大使は甚だ困つた質問をして予を苦しめておる。自主独立を実現するため平和条約を希望する日本に、いかなる寄与を自由世界に対し日本はなすつもりなりやと責めらる。

といえるに、マ元帥は微笑してダレス大使を顧み、

自由世界が今日日本に求むるものは、軍事力であつてはならない。そういうことは実際できない。日本は、軍事生産力を有する。労働力を有する。これに資材を供給して、フルにこの生産力を活用し、これを自由世界の力の増強に活用すべきである。

と大いにダレス大使説得につとめ、

これから会談中意見対立して困難な場面にたちいたる場合には、いつも仲介役をつとむべし。総理の考はよく承知しおれり。

という。

なお三井本館での会談の際、総理よりダレス大使に、

先日受け取りし議題のうちには、技術的な事項も相当あり、これらは、既に多少研究もいたしたり。

わが方の見解を書き物にまとめて、明30日午後6時に御手許にとどくべし。

(なお、この書き物は、その前にマ元帥にとどける必要あり)

また、国会開会の折にてもあり自分によんどころなき支障あるときは井口次官において代理としてお話しすることとすべし。

ということに打ち合わせおきたり。

(以 上)

付録 6 1951年1月30日先方に交付した「わが方見解」(英文)

—— 付、和文 ——

Note: I am setting forth below my private views.—S.Y.

Suggested Agenda

I. Territorial

1. It is proposed under 3 of the 7 Principles that the Ryukyu and Bonin Islands be placed under U.N. trusteeship with the United States as administrating authority. While Japan is ready to meet in any manner American military requirements, and even to agree to a lease under the Bermuda formula, we solicit reconsideration of this proposal in the interest of lasting friendly relations between Japan and the United States.
2. We ask that the following points be considered in case trusteeship is deemed indispensable.

- (a) It is desired that these islands will be returned to Japan when the need of trusteeship disappears.
- (b) The inhabitants be allowed to retain Japanese nationality.
- (c) Japan will be made a joint authority together with the United States.
- (d) Those inhabitants of the Bonin Islands and Iwojima who were evacuated to Japan proper, either during the war by Japanese authorities, or after the war's end by U.S. authorities, who number about 8,000, will be permitted to return to their respective home islands.

II. Security

The views of the Japanese government on security are as follows.

1. Japan will ensure internal security by herself.
2. As regards external security, the cooperation of the United Nations and, especially of the United States, is desired, through appropriate means.
3. Any arrangement for this purpose should be made apart from the peace treaty, as providing for cooperation for mutual security between Japan and America as equal partners.

III. Rearmament

1. As a question for the immediate present, rearmament is impossible for Japan.

(a) There are Japanese who advocate rearmament. But their arguments do not appear to be founded on a thorough study of the problem, nor do they necessarily represent the sentiment of the masses.

(b) Japan lacks basic resources required for modern armament. The burden of rearmament would immediately crush our national economy, and impoverish our people, breeding social unrest, which is exactly what the Communists want. Rearmament, intended to serve the purposes of security, would on the contrary endanger the nation's security from within. Today Japan's security depends far more on the stabilization of people's livelihood than on armament.

(c) It is a solemn fact that our neighbor nations fear the recurrence of Japanese aggression. Internally, we have reasons for exercising caution against the possibility of the reappearance of old militarism. For the immediate purpose we should seek other means than rearmament for maintaining the country's security.

2. Nowadays international peace is directly tied up with internal peace and order. In this sense, we must preserve domestic peace, for which we are determined to assume full responsibility by ourselves alone. For this purpose, it will be necessary for us to increase forthwith the numbers of our police and maritime security personnel and reinforce their equipment.
3. We desire consultation on the question of Japan's specific contribution to the common defense of the free world, in which we are eager to play a positive role.

IV. Human rights, etc.

1. Japan supports without reservation the Universal Declaration of Human Rights. The various principles set forth in that declaration are fully embodied in our new constitution. If you should deem it necessary for Japan to make a declaration on this matter, we have no objection.
2. It is desired that the peace treaty will avoid any stipulation calculated to perpetuate rigidly and unalterably the laws and institutions established under the Occupation.

It is hoped that prior to the termination of occupation the Allied Powers will consider the abolition or modification of such measures as have been taken solely for the purposes of occupation control or those that have proved unsuited to the actual conditions of Japan. This would facilitate smooth transition from occupation rule to normal administration and serve to promote the friendly relations between Japan and America.

V. Cultural Relations

It is our fervent wish to be allowed to take a positive part in the cultural interchange between nations. The strengthening of cultural ties between Japan and the United States is a fundamental question that concerns the Japanese-American friendship. We would like to take all possible measures to promote cultural cooperation between the two countries.

VI. International Welfare

Japan will observe faithfully all the prewar international agreements in this field, to which she is a party. We are also ready to adhere to other agreements made during and after the war, such as the Constitution of World Health Organization and the International Sanitary Convention.

VII. Economics

It is hoped no restrictions will be imposed upon Japan's economic activities.

If for the sake of demilitarization or for elimination of war potential certain industries were to be designated as "war industries" and subjected to restriction, it would mean penalizing peace industries, and seriously hamper the progress of Japanese economy toward self-support. Take shipping, for example. To Japan as a trading nation, it is essential to possess an adequate tonnage. If on the ground that ships can be turned to war use Japan were to be restricted in tonnage, type and speed of vessels, or the ship-building capacity, her peaceful commerce would suffer disastrously. Likewise any restrictions on the manufacture of steel, light metals, synthetic rubber or oil, etc., would mean restrictions on peace industries.

Again it would be incompatible with the principle of fair trade to restrict certain industries with a view to checking Japanese competition in international commerce.

VIII. Trade

1. Japan lives on trade. It is through trade that she can best contribute to world prosperity. It is earnestly desired to establish speedily with all countries trade relations based on reciprocity and on mutual extension of the most favored nation's treatment.
2. It is hoped that the peace treaty will expressly provide for this mutual extension of the most favored nation's treatment between Japan and a

country concluding peace with her even prior to the signing of a treaty of commerce and navigation between them.

3. Japan will observe strictly the various prewar international treaties to which she is a signatory, providing for the promotion of trade and for the establishment of equal and intimate trade relations (e.g. the Industrial Property Protection Convention, International Labor Convention, etc.): and furthermore she desires to participate in the similar postwar international treaties (especially, the International Monetary Fund, the World Bank and the General Agreement for Trade and Tariff).

IX. Fisheries

1. Freedom of fishing on the high sea being a recognized principle of international law, we expect that Japan will not be subjected to special restrictions such as are not imposed upon sovereign states.

2. Japan will scrupulously observe all international law, international agreements and usages; she will cooperate wholeheartedly in all international undertakings and programs for the conservation and investigation of fishery resources.

3. Accordingly Japan will cooperate in the execution of the existing international agreements on the protection and investigation of the fishery resources including whales, seals, halibut, salmon and tuna. With respect to United States conserved fisheries, we are prepared to reach a concrete understanding.

X. Reparations and war claims

1. Reparation

It is desired that no industrial facilities will be taken away for reparation beyond those which have already been removed; and no reparations from current production or in money will be demanded.

2. War claims

We have no objection to the arrangement as outlined under 6 of the 7 Principles. But we submit the following.

(a) Japanese assets abroad. It is desired that all Japanese assets in those of the Allied countries, which did not actually engage in hostilities, will be returned. Of the Japanese property in the countries which engaged in hostilities, special consideration will be given, if possible, with respect to privately owned assets. In case these are also to be applied to the payment of war claims, it is requested that the question

of compensations to their owners be left to the discretion of the Japanese government. This is a matter that will have a serious bearing upon Japanese economy, and the government will take an equitable measure by taking the various circumstances into consideration.

(b) Looted property. Restitution has been effected for the most part. It is desired that the matter will be considered closed with the conclusion of peace.

(c) Allied assets in Japan. It is desired that the necessary steps will be taken to complete their restoration as soon as possible.

(d) Japanese gold. It is desired that all gold, still being impounded, will be returned.

XI. Postwar claims

It is the intention of the Japanese government to liquidate all postwar indebtedness.

XII. War criminals

We request the following:

1. No more new arraignments.
2. An amnesty on the occasion of the conclusion of the peace treaty.
3. Transfer to Japanese authorities the execution of sentence.

Note: As of January 1, 1951, there were 1,378 war criminals serving prison terms and 2 on trial in Japan, while overseas 759 were in prison and 36 on trial.

XIII. Procedure

1. We want and expect to conclude peace forthwith with as many countries as possible.
2. We hope that there will be no delay in the making of the treaty for procedural reasons; and that the substance of the treaty will not be sacrificed for the sake of winning more adherents.

(和文)

注。以下に私見を開陳する。 エス・ワイ

提 案 議 題

1 領 土

- 1 琉球及び小笠原諸島は、合衆国を施政権者とする国際連合の信託統治の下におかれることが、7原則の第3で提案されている。日本は、米国の軍事上の要求についてい

かようにでも応じ、バーミュダ方式による租借をも辞さない用意があるが、われわれは、日米両国間の永遠の友好関係のため、この提案を再考されんことを切に望みたい。

2 信託統治がどうしても必要であるならば、われわれは、次の点を考慮されるようお願いしたい。

- (a) 信託統治の必要が解消した暁には、これらの諸島を日本に返還されるよう希望する。
- (b) 住民は、日本の国籍を保有することを許される。
- (c) 日本は、合衆国と並んで共同施政権者にされる。
- (d) 小笠原諸島及び硫黄島の住民であつて、戦争中日本の官憲により又は終戦後米国の官憲によつて日本本土に引揚げさせられたもの約8千名は各原島へ復帰することを許される。

2 安 全 保 障

安全保障に関する日本政府の見解は、次のとおりである。

- 1 日本は、国内の安全を自力で確保する。
- 2 対外的安全保障に関しては、適当な方法によつて、国際連合、とくに合衆国の協力を希望する。
- 3 このための取極は、平等の協同者としての日米両国間における相互の安全保障のための協力を規定するものとして、平和条約とは別個に作成されるべきである。

3 再 軍 備

- 1 当面の問題として、再軍備は、日本にとって不可能である。
- (a) 再軍備を唱道する日本人はいる。しかし、その議論は、問題を徹底的に究明した上でのものとは思われぬし、また、必ずしも大衆の感情を代表するものでもない。
- (b) 日本は、近代的軍備に必要な基礎資源を欠いている。再軍備の負担が加えられたならば、わが国民経済は立ちどころに崩壊し、民生は貧窮化し、共産陣営が正しく待ち望んでいる社会不安が醸成されよう。安全保障のための再軍備は、実は逆に、国の安全を内部から危殆におとし入れよう。今日、日本の安全は、軍備よりも民生の安定にかかることはるかに大である。

(c) わが近隣諸国が日本からの侵略の再現を恐れていることは、厳たる事実である。国内的には、旧軍国主義の再現の可能性に対して警戒する理由がある。さしあつて、われわれは、国の安全維持を再軍備以外の方途に求めなければならない。

- 2 今日、国際の平和は、国内の治安と直接に結ばれている。この意味において、われわれは、国内の治安を維持しなければならず、そのためには、われわれは独力で完全な責任をとる決心をしている。これがため、わが警察及び海上保安の人員を直ちに増加し、また、その装備を強化する必要がある。
- 3 われわれは、その中にあつて積極的な役割を演ずることを熱望している自由世界の共同の防衛に対する日本の特定の貢献の問題について協議することを希望する。

4 人 権 等

- 1 日本は、世界人権宣言に全面的に賛成する。この宣言に掲げられた諸原則は、わが新憲法に完全に取り入れられている。日本がこの事項について宣言をする必要があると考えられるならば、われわれとしては異存はない。
- 2 占領下に樹立された諸法令及び諸制度をそのまま恒久化することを意図するような規定を平和条約に設けることは、避けられたい。

連合国は、もつぱら占領管理の目的のためにのみ執られた諸措置又は日本の実情にそわなくなつた諸措置の廃止又は修正について、占領の終了前に考慮されたい。こうすることが、占領管理から平常の統治への移行を円滑ならしめ、また、日米間の友好関係の増進に資するゆえんであらう。

5 文 化 関 係

われわれは、国際の文化の交流に積極的に参加することを許されるよう熱望する。日米間の文化の連帯の緊密化は、日米の親善関係に関する根本問題である。われわれは、両国間の文化的協力を増進するようあらゆる措置を執りたい。

6 国 際 福 祉

日本は、従来から当事国であるこの分野のすべての戦前の国際協定を忠実に遵守する。われわれは、また、戦争中及び戦後締結された他の協定、たとえば、世界保健機関憲章、国際衛生条約等に参加する用意がある。

7 経 済

日本の経済上の活動には何らの制限をも課せられないことを希望する。

非軍事化のために、又は、戦争能力の除去のために、ある種の産業が「軍事産業」の名を冠せられて制限を課せられるようなことになれば、事実上平和産業を罰することになり、且つ、自立に向つて進む日本経済の進歩を著しく阻害することになる。造船業を例にとつてみよう。通商を生命とする日本にとつては、相当量の船腹を保有することは不可欠の要件である。船舶は軍用にも転用しうるとの理由で日本が船舶保有量、船型、速力又は造船能力を制限されたならば、日本の平和的通商ははなはだしい損害を受けることになる。同様に、鋼、軽金属、人造ゴム又は人造石油等の製造の制限も平和産業の制限ということになる。

また、国際通商における日本の競争を抑制するために、特定産業を制限することは公正取引の原則とも相容れないであろう。

8 通 商

- 1 日本は、通商に依存して生きている。日本が世界の繁栄に最もよく貢献できるのは、通商によつてである。互惠主義と最恵国待遇の相互の付与とに基く通商関係をすべての国々とすみやかに確立することを切望する。
- 2 通商航海条約締結前にあつても、日本と平和条約締結国との間に最恵国待遇を相互に与え合うことが平和条約に明記されることを希望する。
- 3 通商の促進と平等且つ緊密な通商関係の設定のための日本が当事国である各種の戦前の国際条約（たとえば、工業所有権保護条約、国際労働条約など）を、日本は、厳格に遵守する。更に、日本は、同様の戦後の国際条約（特に、国際通貨基金、国際復興開発銀行、貿易関税一般協定）に参加することを希望する。

9 漁 業

- 1 公海における漁業の自由は、国際法が認めた1つの原則であるから、われわれは、普通の主権国には課せられないような特別の制限を日本に課さないことを期待する。
- 2 日本は、すべての国際法、国際協定及び国際慣習を厳格に遵守する。日本は、漁業資源の保護及び調査のための国際的事業及び計画に全幅の協力をする。
- 3 従つて、日本は、鯨、オットセイ、ハリバット、鮭及びマグロ等の漁業資源の保護と調査のための現行国際協定の実施に協力する。合衆国の保護漁場に関して、われわれは、具体的了解をとげる用意がある。

10 賠償及び戦争に基く請求権

1 賠 償

工業施設による賠償については、すでに撤去された施設以上には取立が行われないうこと、また、年間生産物又は金銭による賠償の要求が行われないうことを切望する。

2 戦争に基く請求権

7原則の第6に略述された処置に対してわれわれは異議を有するものではない。しかし、われわれは次のことを申し述べたい。

- (a) 日本の在外資産。 連合国中日本と現実に関行爲には入らなかつた諸国にあるすべての日本資産は、返還されることを希望する。現実に関行爲に入つた諸国にある日本財産のうち、私有財産については、できれば、特別の考慮を払われんことを懇請したい。戦争に基く請求権の支払にこれらが適用されとした場合には、これら財産の所有者に対する補償の問題は、日本政府の裁量に一任されることを要請する。この問題は、日本の経済に重大な影響を及ぼす問題であつて、政府は、諸般の事情を勘案して公正な措置を講ずる所存である。
- (b) 掠奪財産。返還は、ほとんど終了した。この問題は、平和条約の締結とともに終了したものとみなされるよう希望する。
- (c) 在日連合国財産。 在日連合国財産の返還をできる限りすみやかに完了するために、必要な措置を執られるよう希望する。
- (d) 日本の金。 現在押えられているすべての金を返還されるよう希望する。

11 戦 後 請 求 権

日本政府は、すべての戦後の債務を弁済したいと考えている。

12 戦 争 犯 罪 人

次のことを懇請する。

- 1 新しい訴追をしないこと。
- 2 平和条約締結の機会における大赦。
- 3 刑の執行を日本官憲に移管すること。

注 1951年1月1日現在、在内地受刑者1,378名同未決2名、在外受刑者759名同未決36名。

13 手 続

- 1 われわれは、直ちにできる限り多くの国と平和条約を締結することを望み且つ期待している。
- 2 われわれは、手続の故に条約の締結が延引しないこと、また、参加国の数を多くするために条約の内容が犠牲にされないことを切望する。

付録 7 1951年1月30日「わが方見解」とともに先方に交付された

「日本国を当事国とする国際福祉に関する国際条約リスト」

—— 付、和 文 ——

Conventions for International Welfare

Adhered to by Japan

1. Conventions on Maritime Laws
International Convention for the Safety of Life at Sea, with Annex, signed at London, May 31, 1929.
2. Conventions on Industry
International Convention Prohibiting the Use of White (Yellow) Phosphorus in the Manufacture of Matches, signed at Berne, September 26, 1906.
3. Conventions on Traffic in Women and Children
 - (1) International Agreement for the Suppression of the White Slave Traffic, signed at Paris, May 18, 1904.
 - (2) Convention for the Suppression of the White Slave Traffic, signed at Paris, May 4, 1910.
 - (3) International Convention for the Suppression of the Traffic in Women and Children, open for signature at Geneva from September 30, 1921 to March 31, 1922.
4. Convention on Hygiene
 - (1) Agreement Respecting the Creation of an International Office of Public Health, signed at Rome, December 9, 1907.
 - (2) Convention Relating to the Liquor Traffic in Africa, signed at Saint-Germain-en-Laye, September 10, 1919.
 - (3) International Agreement for the Creation at Paris of an International Office for Dealing with Contagious Diseases of Animals, signed at Paris, January 25, 1924.

(144)

- (4) International Opium Convention, signed at The Hague, January 23, 1912.
- (5) International Agreement Concerning the Manufacture of the Internal Trade in and the Use of Prepared Opium, with Protocol and Final Act, signed at Geneva, February 11, 1925.
- (6) International Convention, Adopted by the Second Opium Conference (League of Nations), and Protocol Relating Thereto, signed at Geneva, February 19, 1925.
- (7) Agreement Concerning the Suppression of Opium-Smoking, signed at Bangkok, November 27, 1931.
- (8) Convention for Limiting the Manufacture and Regulating the Distribution of Narcotic Drugs, and Protocol of Signature, signed at Geneva, July 13, 1931.
- (9) International Sanitary Convention, with Protocol of Signature, signed at Paris, June 21, 1926.
5. Conventions on Labour
 - (1) Convention Concerning Unemployment, adopted on November 28, 1919.
 - (2) Convention Fixing the Minimum Age for Admission of Children to Industrial Employment, adopted on November 28, 1919.
 - (3) Convention Fixing the Minimum Age for Admission of Children to Employment at Sea, adopted on July 9, 1920.
 - (4) Convention for Establishing Facilities for Finding Employment for Seamen, adopted on July 10, 1920.
 - (5) Convention Concerning the Age for Admission of Children to Employment in Agriculture, adopted on November 16, 1921.
 - (6) Convention Fixing the Minimum Age for Admission of Young Persons to Employment as Trimmers or Stokers, adopted on November 11, 1921.
 - (7) Convention Concerning the Compulsory Medical Examination of Children and Young Persons Employed at Sea, adopted on November 11, 1921.
 - (8) Convention Concerning Workmen's Compensation for Occupational Diseases, adopted on June 10, 1925.
 - (9) Convention Concerning Equality of Treatment for National and Foreign Workers as Regards Workmen's Compensation for Accidents, adopted on June 5, 1925.
 - (10) Convention Concerning the Simplification of the Inspection of Emigrants on Board Ship, adopted on June 5, 1926.

(145)

- (11) Convention Concerning Forced or Compulsory Labour, adopted on June 28, 1930.
- (12) Convention Concerning Workmen's Compensation for Occupational Diseases (Revised 1934), adopted on June 21, 1934.
- (13) Convention Concerning the Regulation of Certain Special Systems of Recruiting Workers, adopted on June 20, 1936.

(付録 7 の和文)

日本国を当事国とする国際福祉に関する国際条約

1. 海 法 条 約

海上における人命の安全のための国際条約及び附属書（1925年5月31日にロンドンで署名）

2. 産 業 条 約

マッチ製造における黄燐使用の禁止に関する国際条約（1906年9月26日にベルンで署名）

3. 婦人児童売買条約

- (1) 醜業を行わしめるための婦女売買取締に関する国際協定（1940年5月18日にパリで署名）
- (2) 醜業を行わしめるための婦女売買禁止に関する国際条約（1910年5月4日にパリで署名）
- (3) 婦人及び児童の売買禁止に関する国際条約（1921年9月30日にジュネーブで署名）

4. 衛 生 条 約

- (1) 公衆衛生国際事務局設置に関する協定（1907年12月9日にローマで署名）
- (2) アフリカにおける火酒類取締に関する条約（1919年9月10日にサン・ジェルマン・アン・レーイで署名）
- (3) 国際獣疫事務局をパリに創設するための国際条約（1924年1月25日にパリで署名）
- (4) 国際阿片条約（1912年1月23日にハーグで署名）
- (5) 第1阿片会議の協定、議定書及び最終議定書（1925年2月11日にジュネーブで署名）

(146)

- (6) 第2阿片会議の条約及び議定書（1925年2月19日にジュネーブで署名）
- (7) 阿片吸食防止に関する協定（1931年11月27日にバンコックで署名）
- (8) 麻薬の製造制限及び分配取締に関する条約及び署名議定書（1931年7月13日にジュネーブで署名）
- (9) 国際衛生条約及び署名議定書（1926年6月21日にパリで署名）

5. 労 働 条 約

- (1) 失業に関する条約（1919年11月28日に採択）
- (2) 工業に使用し得る児童の最低年令を定むる条約（1919年11月28日に採択）
- (3) 海上に使用し得る児童の最低年令を定むる条約（1920年7月9日に採択）
- (4) 海員に対する職業紹介所設置に関する条約（1920年7月10日に採択）
- (5) 農業に使用し得る児童の年令に関する条約（1921年11月16日に採択）
- (6) 石炭夫又は火夫として使用し得る年少者の最低年令を定むる条約（1921年11月11日に採択）
- (7) 海上に使用せらるる児童及び年少者の強制体格検査に関する条約（1921年11月11日に採択）
- (8) 労働者職業病補償に関する条約（1925年6月10日に採択）
- (9) 労働者災害補償についての内外人労働者の均等待遇に関する条約（1925年6月5日に採択）
- (10) 船中における移民監督の単純化に関する条約（1926年6月5日に採択）
- (11) 強制労働に関する条約（1930年6月28日に採択）
- (12) 労働者職業病補償に関する条約（1934年改正）（1934年6月21日に採択）
- (13) 特殊の労働者募集制度の規律に関する条約（1936年6月20日に採択）

付録 8 1951年1月31日第2次会談メモ

1月31日外交局で（2時ないし3時半）

総理、次官

ダレス、ジョンソン次官補、マグルーダ少将、シーボルト大使、アリソン公使

1. 日本からだした書き物へのコメント（主としてダレス発言）あり。

(147)

(1) 領 土

国民感情はよく解るが、降伏条項で決定済みであつて、これを持ちだされることは、アンフォーチュネートである。セトルした事として考えて貰いたい。

(2) 安 全 保 障

共産主義の滲とう、サボタージュ、攪乱行為に対する対抗手段は、お互のネーションがそれぞれ自らやるべきで 1. に書いてあることは尤もだ。

しかしそれ以上の場合

(イ) 小規模な武力攻撃に対する防禦については、日本の自力では足りぬかも知れぬから、米国でも援助する。一日本が防衛できるようになるまで米国の軍隊がいる。しかし永久に駐兵というわけにゆかぬ。日本の防衛力ができるにつれ縮少してゆくことにする。

(ロ) 大規模な侵略に対する防衛は、集団保障による以外にはない。1国だけではできぬ。米国といえども然りである。

安全保障について、両 3 日中に互に委員を指名して案を作らせることにしたい。

(3) 再 軍 備

経済上の困難など、書いてある困難は了解する。しかし、これを以て自由世界の防衛に貢献しない弁解にならぬ。この困難に打ち勝つて、何らかの貢献をして貰いたい。

国連にはいれば、国連の安全保障に貢献すべきである。

警察力の強化をいつているが、これを以て第 1 段階となすべきで、それ以後のものについていかなる手段を執るかは徐々に実行して行くことを考えてほしい。多くは期待しないけれども。これについて、前述の委員をして案を「ワークアウト」したい。(ジョンソン、マグルダ、アリソン、シーボルト、を)

(4) 人 権 そ の 他

1 宣言でやることに異存ない。

2 の点は、日本が民主化をやるという精神はつづけてゆくものと了解する。しかし、条約で押えることは適当でないと思う。

この後半については、平和条約の問題でないから、GHQへ要望を出して、シーボルトへ写をよこして呉れ。

(5) 文 化

日米文化の交流の緊密化は同感だ。ロックフェラーが熱意を以て各方面と接触しているから了承ありたい。

(6) 国 際 福 祉

了承した。ユネスコはどうだと反問す。

(アリソンより加入手続をとつておると説明す。)

(7) 経 済

インゼネラルに米国としては賛成だが、比律賓、ビルマなどに反対があるので、米国として苦心が存する。

(8) 通 商

インゼネラルに米国として賛成だが、ダンピングの点について特に注意ありたい。

(9) 漁 業

ブリストル湾の問題を西海岸の業者が問題にしておる。日本が自発的な紳士協定で解決することを案出されたい。それは将来のリーガルライトをサレンダーしなくてもすむ筈である。

(10) 賠 償 等

賠償については、比律賓などが異論があるようだが、米国としては大体日本案に賛成である。

(イ) ウォア クレームについて

在外資産は、事実今までにほとんど処分済みで、従つて返還はできない。ただ、大公使館、領事館関係資産のごときは返還することになろう。

日本人に対する補償の点は、日本の案に異存ない。

(ロ) 掠 奪 財 産

少し残つていると聞いている。「クローズ」とすることはできないが、条約締結後半年とか 1 年の間にアピール・ツウ・ザ・コートを認めるというようなことにして委員間に話し合いたい。

(ハ) 連 合 国 財 産

異存ない。

(二) 日 本 の 金

米国としては返還したいと思うが、何かコンペンセーションを要請するかも知れない。

(11) 戦 後 債 務

方法は、別問題だと思うが、精神は立派で諒とする。どうして返却するか大蔵省側とも話をしてみたい。

(12) 戦 争 犯 罪 人

条約後の新訴追はないと思う。

大赦は1度に全部とはゆかぬけれども、罪状によつて緩和することにした。 (刑の服役の日本委管については言及なし。)

(13) 手 続

早くやることに異存なし。東京会談後、比、新、瀋にゆき、華府にかえる。3、4ヵ月のうちに条約案はできると思う。

2. 総理は、先方の発言中左のような意見を述べられた。

(イ) 安全保障について immediate danger はどの方からくと思われるか。自分はむしろヨーロッパにあると思うがこの点のはつきりしないと安全保障の具体的案は困難ではあるまいか。日本に正確な情報がないから米国の方でよく研究してもらいたい。

(ロ) 造船について、自分の記憶によれば、日本の造船能力は年間70万トン位あるが、現在半分しか利用されていない。これをフルに動かすことが日本の経済自立のために必要である。

(ハ) ダンピングについて、日本でも安売防止に努力している。今後も努力するつもりだ。そのため輸出組合など必要な措置を執りたいが、独禁法とか事業者団体法などからくる困難がある。これらの困難を除去することに好意的考慮を願いたい。

付録 9 1951年2月1日先方に交付した「安全保障について平和条約に挿入すべき条項」と「相互の安全保障のための日米協力に関する構想」

Clauses to be Inserted in the Peace Treaty. (Tentative)

1. Inasmuch as the United Nations is expected to shoulder the responsibility of maintaining international peace and security in the Japan area, the Allied Powers shall support Japan's admission to the United Nations.
2. Pending effective assumption of the above-mentioned responsibility by the United Nations, an agreement within the framework of the United Nations' Charter may be made to adopt the necessary measures for the maintenance of international peace and security in the Japan area.

February 1, 1951.

Formula concerning Japanese-American Cooperation for Their Mutual Security

Japan and the United States desire to contribute to the promotion of world peace and security by firmly establishing peace and security in the Japan area upon the following principles:

(1) The governments of both countries sincerely hope that international peace and security will be preserved in accordance with the principles enunciated in the Charter of the United Nations so that they may live in peace with all peoples and all governments;

(2) Both governments shall duly note that the United Nations has a responsibility by virtue of its Charter to maintain the security of non-member nations, in so far as it is necessary to maintain international peace and security.

(3) The Japanese people, trusting in the justice and faith of the peace-loving peoples of the world, are determined to preserve their security and existence.

Aspiring sincerely to an international peace based on justice and order, they have renounced war and forsworn armaments. The United States of America is convinced that it is the ultimate aim of the United Nations to assure peaceful existence of such a nation, and firmly resolved that aggression against such a nation must be speedily and effectively met.

(4) Peace and security in the Far East is now being exposed to a grave danger of communist aggression. A swift action and strong unity of

peace-loving democratic nations under the principles of the Charter of the United Nations are of urgent necessity in order to ensure the peace and security of the Far East.

For the purposes cited in the foregoing, the two countries shall agree to cooperate for their mutual security as follows:

(1) Responsibility of the United States.

The United States recognizes that the peace and security of Japan are inseparable from that of the Pacific area, especially of peace and security of the United States. The United States shall share responsibility with Japan for maintaining its peace and security.

In case when the United Nations recognizes the existence of an act of aggression against Japan, the United States shall immediately take all necessary measures to meet such aggression.

(2) Responsibility of Japan.

Japan declares that she has an inherent right of self-defense for safeguarding its security and existence.

Japan shall cooperate by all possible means with the United States to meet the act of aggression against Japan.

(3) Application of Article 51 of the Charter of the United Nations.

The foregoing does not preclude the application of Article 51 of the Charter of the United Nations. (To wit, in case when an armed aggression is committed against Japan, the two countries evoke the right of self-defense.)

(4) Stationing of United States Armed Forces.

Japan will agree to the stationing of United States forces within the Japanese territory to carry out the mutual responsibility stated in the foregoing.

As regards the sites and facilities to be offered by Japan for the stationing of United States forces as well as the strength of the said forces, not to be made public, shall be decided by the committee (see below).

(5) Consultation.

The two countries shall consult with each other whenever the territorial integrity, political independence or security of the contracting parties are deemed to be threatened.

(6) Expenses.

Expenses of the United States forces stationed in Japan shall be borne by the United States, excepting such expenses concerning places, facilities or services as may be borne by Japan.

(7) Status of the Stationary Troops.

The United States forces stationed in Japan shall enjoy the privileges

and immunities which are normally accorded under international law to an army of a nation stationed in a foreign country in peace time. In order to avoid future disputes on the application of this principle, the committee (see below) shall immediately draw up concrete rules on privileges, immunities as well as on various matters pertaining to the stationing of the United States forces.

(8) Compensation.

The United States will make a just compensation for any damage caused to the person or property of a Japanese national by its troops or by individuals affiliated therewith.

For the foregoing purpose, the two countries shall establish an organ under the committee (see below) composed of representatives of the two countries to carry out joint investigation and to determine the amount of such compensation.

(9) Committee.

The two countries, in order to deliberate on the matters concerning the execution of this agreement, shall establish a committee to be composed of equal number of representatives of the two countries. The committee shall be so organized that it may meet immediately at all times. The committee may establish such auxiliary organs as may be required.

The decisions of the committee shall be executed by the two countries.

(10) Term.

(A definite term for this cooperative relationship, say ten years shall be fixed in the agreement. However, it shall terminate when the two countries duly recognize that the United Nations can effectively assure Japan's security.)

付録 10 1951年2月1日第3次会談メモ

1951年2月1日午前11時より正午まで

アリソン ジョンソン マグルーダ バブコック

井口 西村

安全保障に関し、平和条約に挿入すべき一般的規定と日米間の協力に関する構想をとりあげて、逐条検討しつつ、質疑応答を重ねたり。

当方の交付したる協定案は頗るヘルプフルなりといえり。

諸種の意見がでたるが、その要点は、左のとおり。

第1 米国の責任について

国連が日本に対する侵略の存在を決定するときは、米国は対抗措置を執ることとなっているが拒否権のため国連の決定は成立せざる場合あり、いかになるやとの間あり。それは、第3の憲章第51条による自衛権の発動によつてカバーさるとの当方の説明にて先方満足したり。

第2 日本の責任について

日本に対する侵略ありたる場合、日本は可能なるすべての手段により米国と協力することになつてゐるが、日本はいかなる協力を与えうるやとの質問あり。当方より考えうるすべての手段、例えばフィジカル フォースとしては警察力もあり、工業生産力もあり、人力(マンパワー)もあり、施設提供もあり、運輸もあり、法律上も事実上もできるすべての手段をふくむつもりなりと説明したり。この点については最後に詳説す。

第4 米軍の駐屯について

当方案に米軍の移動の自由をかかげざるは、これを否定する意なりやとの間あり。勿論認むるものにて、ただ当方の案はひとつの構想のアウトラインを書きたるものにて、案文は更に精密にすべきものなりと答え、先方了承す。

駐屯地点、施設、兵力などを公表せずとあるはいかんとの間に対し、かような事柄は米国の軍機に属することにて、公表される協定にかかぐべき性質にあらず、従つて共同委員会にて決定すとして公表を回避せらるなりと説明し、先方了承す。

第5 協議条項について

両国の領土の安全や独立に脅威ありと認むるときは、両国は協議すべしとの条項は適当なり。本協定の内容をなす事項について、米国は、国務省と国防省とを有す。日本は外務省のみあり。日本にも国防省的の国の中央機関を設けられる必要ありと思ふこととの意見開陳あり。

第6 経費について

駐軍の費用は、米国にて負担し、日本はその提供する施設や役務に対し経費を負担すとあるが、米国は、日本の防衛力を整備のため財的援助をおしまぬつもりにて、その趣旨より、日本の負担を軽減することを考へべしと述べたり。

第9 共同委員会について

協定の実施のため日米共同委員会を設置する考案についても、前述、協議条項の場

合と同じく、日本政府においては、国の安全に関する諸問題を統轄する国防省とまではいわざるも、それに近い中央機関を設置せられる必要あるべし。当方の意見いかんと繰返し、意見を求められたり。

当方より日本は、機関はなくとも専門家はあり。これをテクニシャンとして使うこと可能なりと答うるにとどめたり。

第10 期限について

当方の構想に、一例として10年という年限をかかげあるに対し、10年たてば、はつきり、この協力関係がたたれるということは、米国としては、こまる。日本の安全が実効的に保障されるにいたるまで、というが如く、もつとフレキシブルな方式を希望すとの意見開示あり。

以上が構想の案文に対する先方の意見の主なるものなるが、その途中にとりあげられた一般問題と先方の意見中とくに注意すべきもの左の如し。

(イ) 日本の協力の具体的内容について意見を述べたる際、先方(アリソン、ジョンソンとくにアリソンこれを繰返ししたり)は、繰返し繰返し、米国は、日本が警察力や産業力を以て米国に協力する以上に、少くとも、ある程度のグラウンド・フォースを以て協力することを期待す。日本が警察予備隊の増強を必要と考えておることは承知しおるが、それは、現段階において国内治安力を充実するものにして、米国の問題とするは、その次にくる段階としてどの程度のグラウンド・フォースを建設せられんとするやの点なり。このグラウンド・フォースは、もちろん徐々に増強して行かすべきものにして、その増強につれ米国は日本にある兵力を他に転用せんことを考えおれり。少くも、第一段階において日本がもたれんとするグラウンド・フォースの規模について承知したし。米国は、財政上、また、機材的に十分日本のグラウンド・フォースの建設を援助するの用意ありと、当方の回答を求む。

当方は、わが提供しうる生産力の相当あることを指摘しつつ先方の集団保障に関する腹案を知りたく思うし、また、どの方向からイミディエートな攻撃を予想せられるや、グラウンド・フォースについては、米国側において考えておらるる財政上及び物質上の援助の規模を先ず知りたる上での話にしたしと答え、明日の会談にてこの点について何か資料を提出されたしと希望しおけり。

(ロ) おなじく日本の協力の内容として、アリソンより、米国としては、太平洋において

も、時日を要すべきも、北大西洋条約方式の地域的集団安全保障が成立し、日本もその一員として参加し、よつて太平洋の安全保障を確立することを希望しおれるが、日本は、かような地域的集団安全保障に対していかなるコントリビューションをなさるつもりなりやと質問あり、当方より、前述の日米間の協力協定における日本の協力について答えたる以上答え得ずといひおけり。

(ハ) 日本において国防省的の中央機関を設ける必要あることをジョンソン・マグルーダ両氏より、強く言及されたるに驚きたり。

(ニ) マグルーダ少将より、特に、左の2点の質問ありたり。

(a) 日本はかかかかる協定によつて、米軍とともに他の国の軍隊が駐在することについて、いかに考えられるか。(当方より、強く、日本人は米軍のみの駐屯を望むことを答えおけり。)

(b) 再軍備のため憲法を改正することは、困難と考えるや。(当方より、現在のところ憲法改正はデリケートな困難な問題なりとの印象を有すと答えおけり。)

なお、漁業に関する当方のメモ(先方はエキスパートに研究せしむべしといえり)とダンピングに対する当方のメモを先方に渡したり。

終りに、明朝(2月2日)10時から11時に会談すべきこと及び新聞記者に対する説明ぶりについて打合せて辞去したり。

付録 11 漁業に関するメモ

On Fisheries

1. As a unilateral measure the Japanese government will take the following steps.
2. The Japanese government will confirm afresh its policy of faithful adherence to international fishery agreements and conventions and prohibit strictly any violation of conserved fisheries in all waters.
3. The government will set up a commission, composed of representatives of both government and industry, whose duty shall be to see that the above-mentioned prohibition is fully observed.
4. Any party the commission has found guilty of violation shall be subject to severe penalty, including revocation of the fishery licence.

(156)

5. Duly appointed representatives of foreign governments will be invited to sit on the commission as observers.

February 1, 1951

付録 12 輸出および輸入における公正競争について

Fair Trade in Export and Import

Japan's export industries are characterized by the existence of an extremely large number of small and midium enterprises, which naturally leads to illegitimate competition of undercutting of prices and consequent deterioration in the quality of exported goods.

The only means of preventing of such practices lies in the formation of exporters' associations and the elimination by mutual agreement the evil of price undercutting. However, the formation of such organization and conclusion of such price agreements are prohibited by the Anti-Monopoly Law and the Enterprise Law.

The Japanese government hopes that they will permit the enactment of an Exporters' Association Law or other similar legislative measures to ensure the practices of fair trade.

February 1, 1951

付録 13 日本の経済自立の基礎としての食糧及び漁業に関する要望事項(農林省)

講和条約の締結が近い将来に期待されることの貴下の言明はわれわれに非常な喜びと希望を与えたと同時に、貴下の大なる努力に感謝するものである。

われわれは自主性の回復に伴う責任を痛感し、政治的独立と同時に経済自立の達成に努力することは勿論であるが、このことは米国の援助なくしてはできないのであるから、この機会に農業及び漁業に関して若干の要請を述べたい。

1 食糧輸入の確保

日本は食糧が2割不足し3百万トンの輸入をしている。今後自立経済計画に基いて最大限に国内生産の増強を進め且つ予期の通りの成果を挙げることができるとしても3年後なお250万屯以上の食糧は海外からの輸入に依存しなければならぬ実情である。

(157)

従て、今後日本の経済力を以て食糧輸入が確保出来るか否か又国際情勢の変化に応じて、確なる海外の供給源が保障されるか否かは国民の最大の関心事であり、われわれは、日本の自立と自衛も一にこの点に係ると考えるので、特に左記事項に特別の考慮を払われたい。

- (1) 日本の必要とする食糧輸入については今後日本の輸出力の伸長によつて随うべきは勿論であるが、未だ経済自立が困難であるので、講和条約締結後も一定量の食糧についてはクレジット等何らかの方法により輸入の援助をはかられたい。
- (2) 国際小麦協定への加入を速かに認められたい。
- (3) 重要物資に関する国際的割当機構が成立される場合には日本の最少限度必要とする食糧について確保をはかられたい。

2 漁区の制限の撤廃

漁業は国民蛋白食糧の重要な給源であり、また産業としても重要な地位を有している。然るに現在の如き漁区の制限は日本の漁業にとって致命的であるので、われわれは当然講和後は公海における漁業自由の原則を恢復し得るものと期待している。而してこの漁区制限のために漁業経営は現に極端に困難している事情に鑑み、漁区制限を緩和する措置は、講和前に於ても至急考慮されたいものである。

なお、日本は、将来捕鯨条約及ラッコ、オットセイ条約に加入することは勿論、日本漁船の自由出漁によつて万一国際的紛争を起すようなことがあるとすれば、自主的にこれを未然に防止するに必要な措置をとる用意を有するものである。

3 農民の海外移住

狭隘な国土に膨大な人口を抱えている日本にとつて、海外移住の途が拓かれることは実際に移民し得る数の如何に拘らず、国民に最大の明るい希望を与えるものであるが、とりわけ農村に於ては、既に数十年以前から人口収容力の飽和点を超過しており、今後永い将来に亘つて、深刻且つ困難な問題であるので、日本が国際社会の一員に復帰するに際しては特に左の点について特別の考慮を煩ししたい。

- (1) 農民の海外移住について国際的に平等の機会を与えられたい。
- (2) 農民及び漁民に対して、海外の季節的な労働力の需要に応ずるため、一時的な海外出稼を認められたい。
- (3) 東南アジア未開発地の開発については、日本の農林、漁業に関する技術者及び相

当な技能を有する農民等の利用がこれに寄与すると考えるので、日本は将来これ等を利用する計画が樹てられる場合には積極的に協力する用意がある。

4 旧領土における施設の経済的利用関係の恢復

旧日本領土内の施設の利用如何は日本の経済活動に極めて影響が多いので左の施設についてはその経済的利用関係の恢復を許容されたい。

- (1) 太平洋上の島嶼中軍事的その他の理由によつて利用を禁ずる必要のないものについては漁業の根拠地として利用の恢復を許されたい。
- (2) 沖縄は、気候等自然的条件から甘藷の新品種の育成試験、研究、蚕種の優良品種の育成増殖には本土内に求め得られぬ不可欠な最適地であるため、従来から、試験研究施設を設けていたが、将来における国内食糧の生産改善と日本の蚕業の改良にはこれら施設の利用如何が影響するところ極めて重大であるから、これら施設の経済的利用については従前の関係を恢復しうることとすると共に、同島の天然資源の経済的開発を為し得るよう配慮せられたい。

付録 14 輸出貿易における公正取引の確保に関する件

— 1951. 1. 31通産次官、目黒公邸に持参—

我国の輸出品の生産及び輸出が極めて多数の中小規模の業者によつて実施されていることは我国貿易の顕著な特色であるが、これらの業者の中には遺憾ながら資力及び信用において欠けるところのあるものが少くないので、輸出品の売込競争に際して不当な値下げを行い、輸出先の市場を攪乱し、更に値下げの反面として輸出品の品質を悪化せしめる等の弊害が顕著であつた。

朝鮮事件後の世界貿易情勢の変化によつて我国の輸出品に対するダンピングの非難は緩和せられはしたが、不公正競争の弊害は未だ跡を絶つに至っていない。

現在、政府がダンピング防止のために採っている法的措置は、独占禁止法第5章の不公正な競争方法の禁止の規定が一般的に適用せられるほか外国為替及び外国貿易管理法に基いて輸出品価格の事後審査を行い、不公正競争を行つた者に対しては先ず戒告を行い、更にこれを反復した者に対しては1年以内の期間を限り輸出を停止し得る途を開いている。然しながら日々無数に行われる取引について政府が完全な事後審査を行うことは極めて困難であり、遺憾ながら充分の実効を挙げているとは言えない。

政府としては、輸出の分野における不公正競争を根絶する目的を以て、輸出業者をして組合を結成し、或は相互間の申合せによつて輸出価格の切崩しを防止せしめたい考えであるが、斯くの如き組合の結成乃至協定の締結は我国においては独占禁止法及び事業者団体法によつて厳禁せられているところである。

政府としては輸出貿易の分野において独占禁止法及び事業者団体法の例外を認めることは、米国においても認められているところでもあるから、独占禁止法及び事業者団体法の適用をこの趣旨において緩和したい強い希望を持つているが、今日までのところ総司令部特に公正取引課の強い反対によつて実現するに至っていない。

政府としては総司令部側において反対がない限り今日においてもなお輸出組合法乃至類似の立法措置によつて輸出分野における公正取引の確保を期したい考えである。

昨年中における不公正競争の 2、3 の実例

- 1 昨年 2 月頃、印度向ボール・ベアリングの輸出において日本側輸出業者の売込競争の結果輸出価格が従前の最低価格（フロア・プライス）を 55% 方切下げ、これによつて相手方に対し甚大なる損害を与えた。
- 2 昨年 2、3 月頃、日本製双眼鏡及び自転車の輸出については値崩しの事例が多く各国の買手から著しい不信を買った。
- 3 昨年 2、3 月頃、我国の鉄鋼製品の輸出価格は国際価格よりも低廉であつたに拘らず、日本輸出業者相互間の売崩し競争が展開せられたため、特にフィリピン、タイ国等の買手側からは既契約の取消等を申込まれるに至つた。
- 4 合板の濠洲向輸出についても同様の値下げ競争があり、濠洲政府が日本品に対する輸入税増加を考慮している旨の情報があつた。
- 5 昨年上半期における寒天の輸出についても値崩し競争が行われ最低 1 弗 70 仙程度のものが 1 弗乃至 80 仙程度にまで低落した。

附 属

外国為替及び外国貿易管理法

第 50 条 貨物を輸出する者は、当該貨物の最終仕向国における不公正な競争の禁止に関する法令を十分考慮した上で輸出しなければならない。

輸出貿易管理令

第 7 条 通商産業大臣は、第 10 条の規定により提出された書類により、当該貨物の

(160)

輸出が法令の規定に従っているか否かを審査するものとする。

第 8 条 通商産業大臣は、外国為替及び外国貿易管理法（以下「法」という。）第 50 条の規定の趣旨に反する行為をしたと認められる者があつたときは、その者に対し、その旨を戒告することができる。

2 通商産業大臣は、前項の規定による戒告を受けた者がその戒告を受けた後 1 年以内に法第 50 条の規定の趣旨に反する行為をしたと認めるときは 1 年以内の期間を限り、通商産業大臣の書面による承認を受けなければ貨物の輸出をしてはならない旨を命ずることができる。

3 通商産業大臣は、前項の規定により、承認を受くべき旨を命じた者から承認の申請があつたときは、その者が当該輸出に関し法第 50 条の規定の趣旨に反する行為を行っていないことを確認した後において、承認をしなければならない。

付録 15 1951 年 2 月 2 日の会談メモ

2 月 2 日外交部にて（10 時半ないし正午）

アリソン、ジョンソン、マグルーダ、バブコック

井口 西村

- 1 当方より用意せる治安省の設置と憲法と再軍備の関係についての文書を提出す。

先方は、

- (イ) 治安省という考えは、甚だ結構だという。

その構成について(1) 陸軍省的なところがでていない、また、参謀本部らしいものがでていないというので、こちらでは、この役所はポリス部と国防部というような区分をして後者に国防的な役割をもたせ、参謀本部はそれに附置するという大体の構想であると答え先方了解す。(ニ)新省に国警のことを吸収する点は、日本の警察の地方分権化という占領政策に関連してき、GHQ との関係において考うべき点ありとマグルーダ少将いい、当方は、しかりと答う。

- (ロ) 再軍備と憲法との関係については、先方了承す。マグルーダ少将より、再軍備の場合その規模は米国よりの援助に依存す（わが方の文書の末尾）とあるところについて、日本が自力によつて自衛するため努力する必要ありといい、当方より、その点は総理の口ぐせのようにいわれておるところにして日本は自力で国を守る意気込

(161)

なり、現実の問題として、しかし、再軍備となれば米国の援助が必要なりとの趣旨をのぶ。

- 2 次いで、前回当方から提出したる安全保障のための日米協力を基礎として、これに米比軍事基地協定のテクニカルな条項をとりいれたる「日米協力協定」案を提示される。

案文を読みつつ、質疑を重ね、終つて、日本側の研究の結果を明日土曜日（3日）午後4時頃までに先方にとどけ、それを先方は、日曜に検討しおき、月曜5日午前10時半に会合すべきことに打ち合わせたり。

当方の思付きの意見として、占領終了のとき連合軍が使用している施設その他は、そのまま米国駐屯軍が使用する権利があるとなつている点は、日本人にやや失望を感ぜしむべし。「防衛地域」なる用語は、日本人に要塞地帯の如き広い範囲の地域を連想せしめて面白からず、日本の再軍備を予想し、また、戦争の場合日本の警察予備隊その他のフォースは米国軍司令官の統轄の下にはいるという条項のごときは、内外とくに国内において憲法と関連して重大問題をまきおこす懸念あり。協定にはいれざるが賢明なり（日本にその意思なしというにあらず、協定に明文化するは賢明ならずとするなり）などを申し述べおきたり。

附 記

(イ) 先方に交付せる文書「国家治安省の設置及び再軍備と憲法」と警察制度の改正に関する日本の要請（GHQに提出されたもの）。

(ロ) 即日、午後一杯かかりて先方の提案に対する日本側の意見をまとめたり。

2月3日（土曜日）午前井口及び西村大蔵に赴きて総理の了承を得たる上（その際、共同委員会を活用することにし、技術的条項は全部別個とすることを追加要請するよう、指示せらる。）午後アリソンに交付したり。

付録 16 1951年2月2日の会談で先方に交付した「安全保障につ

いての日米協力のための中央機関の設置について」

—— 付、和文 ——

A Central Organ for Japanese-American Security Cooperation

1. The question has been suggested if it might not be desirable for the

(162)

Japanese government to set up a central organ something like a defense ministry as a part of the Japanese-American cooperative system to be established for the maintenance of international peace and security in the Japan area.

The Japanese government is favorably disposed to the suggestion. However, in view of the apprehension abroad regarding Japanese rearmament and intrinsic character of Japan as an unarmed state, it would be necessary to be careful about the name as well as the structure of such an organ. We must also keep in view the need of simplifying the country's administrative machinery and reducing the people's tax burden.

Considering these circumstances, we have a tentative plan to create a ministry to be called "Ministry of National Security," which will absorb the National Police Reserve, National Rural Police, Autonomous Police, Maritime Safety Agency, National Fire Agency, Immigration Agency, etc., having in charge of the affairs relating to the maintenance of peace and order of the country, and which will also handle the matters of Japanese-American security cooperation.

2. Rearmament and the Constitution.

In order that Japan may possess armaments it will be necessary to revise Article 9 of our Constitution. Constitutional revision solely for the purpose of rearmament would seem to be a very delicate and difficult thing at this time. Assuming that a peace treaty will be concluded in the near future, it would prove a knotty problem to establish armed forces immediately upon the conclusion of peace. The Japanese government believes that until peace is concluded and Japan is readmitted into the society of nations, and until Japanese mentality become ripe for rearmament, it will be best to achieve in practice the purposes of rearmament through the maintenance of a physical force that falls within the general concept of a police force.

And the scope of such a physical force to be maintained by Japan will depend upon the financial and material assistance that Japan may expect from the United States.

February 1, 1951

(和文原案)

安全保障のための日米協力について（1951、2、1）

1 中央機関の設置について

日本区域における国際の平和と安全を維持するため日米間に協力体制を設定しよう

(163)

とする構想に関連して、日本政府は、国防省的な中央機関を設くべきではあるまいかとの問題がとりあげられた。

日本政府は、かような中央機関を設けるアイディアに好意的である。但し、外部における日本の再軍備に対する危惧と内部における軍備を保有しえない国の性格から、機関の機構と名称をよく検討する必要がある。また、国の行政組織を簡素化し能率化し国民の負担を軽減する必要を十分に考慮にいれねばならない。

上述したところから、設置すべき中央機関は、総理大臣の統轄の下に立つひとつの省とし、名称は国家治安省（ミニストリー オブ ナショナル セキュリティ）として、現存の警察、警察予備隊、海上保安庁、国家消防庁、出入管理庁の如き国家の対外及び対内の治安維持を管掌する諸機関を吸収するとともに、問題の協定に関連する事項を処理する部分を設けるべきであろう。

2 再軍備と憲法

日本が軍備をもつためには、憲法第9条を改正しなければならぬ。再軍備のための憲法改正は、政府のみるところでは、現在の問題として極めてデリケートであつて困難と判断しておる。従つて平和条約の締結がそう遠くないことと前提して平和条約締結と同時に直ちに日本がグラウンド・フォースをいわゆる「軍備」として建設することは、極めて複雑にして困難な問題を伴うものとする。政府のみるところでは、平和条約が締結され日本が国際社会に復帰して日本人が軍備をもつべきものであるとの気持になるまでは、国内治安のための警備力という概念のうちにはいるフィジカル・フォースによつて、再軍備の目的を實際上達成する外途がないと考える。

そして、こういう概念の範囲内で実質的に再軍備をなすとしても、いかなる規模において、それができるかは、主として、このために日本が期待しうる米国からの財政的及び物的な援助の規模とその永続性によつて決定されるものである。

付録 17 1951年2月2日の会談で先方から提出された「相互の安全保障のための日米協力協定」案

CONFIDENTIAL

AGREEMENT CONCERNING JAPANESE-AMERICAN COOPERATION FOR THEIR MUTUAL SECURITY

Preamble

Japan and the United States desire to contribute to the promotion of world peace and security by firmly establishing peace and security in the Japan area upon the following principles:

(1) The governments of both countries sincerely hope that international peace and security will be preserved in accordance with the principles enunciated in the Charter of the United Nations so that they may live in peace with all peoples and all governments;

(2) Both governments shall duly note that the United Nations has a responsibility by virtue of its Charter to maintain the security of non-member nations, in so far as it is necessary to maintain international peace and security.

(3) The Japanese people, trusting in the justice and faith of the peace-loving peoples of the world, are determined to preserve their security and existence.

Considering that both governments have agreed in the Treaty of peace that armed forces of the United States shall remain in the Japan area for this purpose until a superseding security arrangement acceptable to the United States government is adopted in pursuance of Article 43 or other appropriate Articles of the Charter of the United Nations, or until other suitable arrangements are effected;

Having in mind that nothing in the aforementioned Treaty of Peace impairs, and that Article 51 of the Charter of the United Nations affirms, the inherent right of individual or collective self-defense,

And desiring that this Agreement shall be fulfilled in a spirit of good neighbourliness between the United States government and the Japanese government, and that the details of its practical application shall be arranged by friendly cooperation.

For the purposes cited in the foregoing, the two countries shall agree to cooperate for their mutual security as follows:

Chapter I

Responsibility of the United States

(1) The United States recognizes that the peace and security of Japan are inseparable from that of the Pacific area, especially of peace and security of the United States. The United States shall share responsibility with Japan *for maintaining its peace and security.*

(2) In case of an act of aggression against Japan, the United States shall immediately take all necessary measures to assist Japan in meeting such aggression.

Chapter II

Responsibility of Japan

(1) Japan declares that she has an inherent right of self-defense for *safeguarding its security and existence.*

(2) Japan shall cooperate by all possible means with the United States in maintaining peace and security in the Japan area and in meeting any act of aggression against Japan.

Chapter III

Consultation

(1) The two countries shall consult with each other whenever the *territorial integrity, political independence or security* of the contracting parties are deemed to be threatened.

Chapter IV

Stationing of United States Armed Forces

(1) Japan requests and the United States agrees to the stationing of United States forces within the Japanese territory to assist in carrying out the mutual responsibility stated in the foregoing.

(2) Japan agrees that she will not grant, without the prior consent of the United States, any bases or any rights, powers, or authority whatsoever, in or relating to bases or the right of garrison or of maneuver, to any third power.

(3) In the event of hostilities or imminently threatened hostilities, the Supreme Commander of all forces in Japan, designated in accordance with par 2/Chap 8 infra, shall have the authority to use such land areas, installations and facilities in the Japan area and to make such strategic and tactical dispositions of military forces as he may deem necessary. In taking such

action, the Supreme Commander shall consult with appropriate representatives of the Japanese government.

(4) In locating the aforesaid areas for strategic and tactical disposition, the fullest consideration consistent with military necessity shall be given to the welfare, health and economic needs of the native peoples of Japan.

(5) In the absence of hostilities or imminently threatened hostilities, security forces of the United States after agreement between the United States and the Japanese governments, shall have the right to use land and coastal areas of appropriate size and location for military exercises, for additional staging areas, bombing and gunnery ranges, and for such intermediate airfields as may be required for safe and efficient air operations. Operations in such areas shall be carried on with due regard and safeguards for the public safety.

Chapter V

Expenses

(1) Expenses of the United States forces stationed in Japan shall be borne by the United States, excepting such expenses concerning places, facilities or services as may be borne by Japan. (Note: U.S. delegation would like to have the assistance to be furnished by Japan at her expense set forth in detail.)

Chapter VI

Status of the Garrison Troops

(1) The United States forces stationed in Japan shall enjoy the privileges and immunities which are normally accorded under international law to an army of a nation stationed in a foreign country in peace time.

(2) Security forces shall customarily be garrisoned at installations under the control of the allied occupation forces at the termination of the occupation, and all such facilities or areas required by them shall remain under the control of the security forces.

(3) Further assistance, including the use of additional land areas, installations or other facilities, as may be required in the absence of hostilities or imminently threatened hostilities by the security forces for garrison purposes, shall be provided by Japan as mutually agreed between the United States and Japanese governments.

(4) Japanese real and personal property utilized from time to time by security forces shall, when no longer required, be returned to the Japanese government in good condition, subject to normal depreciation or ordinary wear and tear. Except for losses arising directly from hostilities, the United States government shall pay just and reasonable compensation, when accepted by claimants in full satisfaction and in final settlement, for claims, including claims of insured but excluding claims of subrogees, on account of damage to or loss or destruction of private property, both real and personal, or personal injury or death of inhabitants of Japan, when such damage, loss, destruction or injury occurs during the period of this agreement and is caused by the armed forces of the United States, or individual members thereof, including military or civilian employees thereof, or otherwise incident to non-combat activities of such forces; provided that no claim shall be considered unless presented within one year after the occurrence of the accident or incident out of which such claim arises.

Further Description of Rights

(5) Appreciative of similar undertakings by other free nations of the world for the purpose of promoting conditions of international security, Japan further accords to the United States such rights, power and authority within installations or defense areas as are necessary for the establishment, use, operation and defense thereof, or appropriate for the control thereof, and all the rights, power and authority within the limits of territorial waters and air space adjacent to, or in the vicinity of, installations or defense areas which are necessary to provide access to them, or appropriate for their control.

Such rights, power and authority shall include, inter alia, the right, power and authority;

(a) to construct (including dredging and filling), operate, maintain, utilize, occupy, garrison and control the installations or areas;

(b) to improve and deepen the harbors, channels, entrances and anchorages, and to construct or maintain necessary roads and bridges affording access to such installations or defense areas;

(c) to control (including the right to prohibit) insofar as may be required for the efficient operation and safety of installations or defense areas, and within the limits of military necessity, anchorages, moorings, landings, takeoffs, movements and operation of ships and water-borne craft, aircraft and other vehicles on water, in the air or on land comprising, or in the vicinity of, the installations or defense areas;

(d) to acquire such rights of way, and to construct thereon, as may be required for military purposes, wire and radio communications facilities, including submarine and subterranean cables, pipe lines and spur tracks from railroads;

(e) to construct, install, maintain, and employ in any installation or defense area any type of facilities, weapons, substance, device, vessel or vehicle on or under the ground, in the air or on or under the water that may be requisite or appropriate, including meteorological systems, aerial and water navigation lights, radio and radar apparatus and electronic devices, of any desired power, type of emission and frequency.

(6) In the exercise of the above-mentioned rights, power and authority, the United States agrees that the powers granted to it will not be used unreasonably or in such a manner as to interfere with the necessary rights of navigation, aviation, communication, or land travel within the territories of Japan. In the practical application, outside installations and defense areas, of such rights, power and authority, there shall be, as the occasion requires, consultation between the two governments.

Shipping and Navigation

(7) United States public vessels operated by or for the Army or Navy Departments, the Coast Guard or the Coast and Geodetic Survey, and the military forces of the United States, military and naval aircraft and government-owned vehicles, including armor, shall be accorded free access to, and movement between, ports and United States installations and defense areas throughout Japan, including territorial waters, by land, air and sea. In connection with the entrance into Japanese ports by United States public vessels, appropriate notification under normal conditions shall be made to the Japanese authorities.

(8) Lights and other aids to navigation of vessels and aircraft placed or established in the installations and defense areas and territorial waters adjacent thereto, or in the vicinity, shall conform to the system in use in Japan. The position, characteristics and any alterations in the lights or other aids shall be communicated to the appropriate authorities of Japan.

Jurisdiction over Defense Areas, and Installations or Facilities

(9) The United States shall have exclusive jurisdiction over all installations and defense areas in Japan utilized by United States security forces, and over the military and civilian personnel of the government of the United

States and their families within the said installations or defense areas, as well as over all other persons within such areas except Japanese citizens. The government of the United States shall retain the right, however, to turn over to the Japanese authorities for trial and punishment any person, other than a citizen of the United States, committing an offense in such areas. The Japanese authorities shall turn over to the United States authorities for trial and punishment any of the United States military or civilian personnel and their families who may commit offenses outside of such areas. The Japanese authorities and the United States authorities shall undertake adequate measures to insure the prosecution and punishment of all such offenders, it being understood that relevant evidence shall be furnished reciprocally to the two authorities.

Limitations on United States Administration of Security Forces

(10) The Japanese government and the United States government, for the purpose of promoting a sound administration of this agreement, adopt the following provisions from agreements concluded and successfully administered by other sovereign states.

Exemptions in Favor of Security Personnel and Incoming Goods

(11) All materials, supplies and equipment for the security forces, and for the personal needs of military and civilian personnel and their families, shall be permitted entry into Japan free of customs duties, excise taxes, or any other charges, and the said personnel and their families shall also be exempt from Japanese regulations pertaining to passports, visas and residence permits.

(12) No member of the United States armed forces serving in Japan in connection with this agreement and residing in Japan by reason only of such service, or his family, shall be liable to pay an income tax in Japan, except in respect of income derived from Japanese sources.

(13) No national of the United States serving in or employed in Japan in connection with the administration, maintenance, or operation of the United States security forces in Japan and residing in Japan by reason only of such employment, or his family, shall be liable to pay an income tax in Japan, except in respect of income derived from Japanese sources.

Postal Facilities

(14) The United States shall have the right to establish United States

(170)

Post Office within the facilities, installations or defense areas utilized by the security forces for the exclusive use of the latter and for civilian personnel who are nationals of the United States and who are employed in connection with the administration, maintenance or operation of the security forces. This is to include the right by the United States to regulate and control all communications between such facilities, installations or defense areas and other United States Post Offices and agencies.

Sales and Services

(15) The United States shall have the right to establish in installations or areas utilized by the security forces, free of all licenses, fees, and sales, excise, import or other taxes, government agencies, including concessions, such as sales commissaries and post exchanges, messes and social clubs, for the exclusive use of the security forces and authorized civilian personnel and their families. The merchandise or services sold or dispensed by such agencies shall be free of all taxes, duties and inspection by the Japanese authorities.

United States Reserve Organizations

(16) The United States shall have the right to enroll and train all eligible United States citizens, residing in Japan, in the reserve organizations of the armed forces of the United States, which includes the Officers' Reserve Corps and the Enlisted Reserve Corps, except that the prior consent of the Japanese government shall be obtained in the case of persons employed by the Japanese government.

Chapter VII Committee

(1) The two countries, in order to deliberate on the matters concerning sites, facilities, expenses and status of garrison troops shall establish a committee to be composed of equal number of representatives of the two countries. The committee shall be so organized that it may meet immediately at all times. The committee may establish such auxiliary organs as may be required.

Chapter VIII Collective Defense Measures

(1) Any establishment of forces by the Japanese government shall be for the purpose of protecting peace and security in the Japan area and shall

(171)

be consistent with the Charter of the United Nations, including Article 51 thereof which affirms the inherent right of individual or collective self-defense.

(2) In the event of hostilities or imminently threatened hostilities in the Japan area, as determined by the United States government, the National Police Reserve, and all other Japanese armed forces, shall be placed under the unified command of a Supreme Commander designated by the United States government after consultation with the Japanese government.

Chapter IX

Effective Date and Period of Application

(1) The provisions of this agreement shall become effective simultaneously with the coming into force of the Treaty of Peace, and shall remain in effect until the coming into force of such United Nations arrangements or such alternative security arrangements as in the opinion of the United States government will satisfactorily provide for the maintenance by the United Nations or otherwise of international peace and security in the Japan area.

付録 18 1951年2月2日の会談で先方に交付した警察法改正案要綱

Main Points of Police Law Amendments

Proposed Plan of the Japanese Government

Concurred by the National Public Safety Commission

January 22, 1951

I. As to special crimes bearing serious relations to the nation's peace and order, the National Rural Police may exercise its authority, when necessary, also within the area of the Autonomous Entity Police.

As to those special crimes they are, in the general, like the following:

- A. Crime of counterfeiting money, official documents and valuable securities.
- B. Crime against the state-owned or state-used property and facilities, and crime against the national public officials.
- C. Bribery and other crimes concerning the duties of the public officials.
- D. Crime relating to illegal entry into the country or smuggling.
- E. Crime relating to kidnapping or fleh-traffic.
- F. Crime relating to civil war, external war, or diplomatic relations,

(172)

and other offenses damaging the public peace and order or international relations.

II. The personnel number of police officers of the National Rural Police to be fifty thousand (50,000).

III. To clarify the point that when an assistance is given by the National Rural Police or when an assistance is given by the Autonomous Entity Police at the request of the National Rural Police the expense directly required shall be the burden of the National Treasury.

IV. The Autonomous Entity Police shall be obligated to notify criminal informations to the National Rural Police.

V. The Autonomous Entity itself should be enabled to decide on its own will whether or not to maintain its own police department and the number of its police officer personnel should be freely fixed by itself.

When an Autonomous Entity, formerly maintaining its own police department, should no longer do so, then its jurisdictional area will become that of the National Rural Police. The number of police officer personnel of the National Rural Police should be enabled to be increased to the extent necessary to itself and within the personnel number fixed for that former Autonomous Entity Police department.

警察法改正案要綱

1 国の治安に重大な関係を有する特種の犯罪については、国家地方警察は、自治体警察の区域内に於ても、必要によりその権限を行使することが出来ることとすること。

特種の犯罪とは、概ね左の如きものである。

- (イ) 通貨偽造、公文書偽造及び有価証券偽造の罪
- (ロ) 国有又は国の使用する財産及び施設に対する犯罪並びに国家公務員に対する犯罪
- (ハ) 贈収賄其の他公務員の職務に関する犯罪
- (ニ) 密入国、密貿易に関する犯罪
- (ホ) 誘拐又は人身売買に関する犯罪
- (ヘ) 内乱、外患、国交に関する犯罪その他国の治安を害し、又は国際関係を害する犯罪
- 2 国家地方警察の警察官の定員を5万人とすること。
- 3 国家地方警察の行方、又は国家地方警察の要請によつて自治体警察の行方援助に直接要する費用は、国庫の負担であることを明らかにすること。

(173)

- 4 犯罪情報を、自治体警察から国家地方警察に通報せしめること
- 5 自治体警察を維持するかどうかは、その自治体の意思に依つて決めることができることとし、その定員も自由に定めるものとする。

従来警察を維持していた自治体が、警察を持たなくなつた場合にはその地域は国家地方警察の管轄となり、その警察吏員の定員の範囲内で必要な数だけ、国家地方警察の警察官の定員を増加できることとすること。

付録 19 1951年2月1日付「国内治安の確保のための警察力の増強について」

Police Reinforcement for Internal Security.

With respect to the problem of strengthening Japan's police system in order to ensure internal security, there are two aspects for practical consideration.

1. Revision of Police Laws.

The Japanese government has submitted to the Occupation authorities a request as given separately relating to legislative measures, which, it is hoped, will be receive speedy approval.

2. Reinforcement of security forces.

Following a careful study the government has reached the conclusion that beside the reinforcement in number of both the National Police Reserve and the Maritime Police forces, it is necessary to improve their equipment, including light tanks for the former, and 1,500 ton class destroyers for the latter, and a few aeroplanes for both.

February 1, 1951.

国内治安の確保のための警察力の増強について

この問題は、ふたつの項目にわけて、説明するのが、实际的である。

1 警察法の改正

これについては、日本政府は、現に、別紙の要請を占領軍当局に提出している。その早急な実現を期待する。

2 警察予備隊及び海上保安隊の増強

日本政府の一応の研究の結果は、警察予備隊及び海上保安隊の人員の増強の外、その

装備として前者に軽戦車まで、後者に千五百トン級の駆逐艦までを保有せしめ、且つ、両者に少数の飛行機を保有せしむる必要があるとの結論に到達している。

付録 20 1951年2月3日夕先方に交付した「相互の安全保障のための日米協力に関する協定」にたいするわが方のオブザベーション

Observations on the Agreement concerning Japanese-American Cooperation for Mutual Security

1. This agreement must be reached at an early date—the sooner the better.

Provisions envisaging Japan as an armed country or a belligerent are likely to cause complications both in and outside Japan, which might obstruct an early conclusion of the agreement itself. It would seem advisable, therefore, to omit Chapt. VIII. Of course, this does not mean the Japanese government objects to rearmament or to Japan's becoming a belligerent.

2. The Japanese people are looking to a certain measure of relief, mental as well as material, through the conclusion of peace. The government must avoid creating an impression as though the current conditions under military occupation were going to continue, unmodified and indefinitely. From this point it is desired:

(a) The rights, power, authorities and privileges the United States is to have in Japan will not be enumerated in detail.

(b) The facilities and areas for the use of American security forces will be strictly limited to those, which are required for security purposes and which are to be determined by agreement between the two countries.

(c) The term “defense area” sounds big, reminding Japanese of their erstwhile extensive fortified zones. “Security area” or simply “area” would be preferable.

3. It is desired the principle to determine all matters by agreement between the two countries will be followed throughout.

Accordingly;

(a) In Preamble, (3), para 2,

“acceptable to the United States government” will read “acceptable to the governments of the United States and Japan.”

(b) In Chapter IV, (1),

“Japan requests and the United States agrees to”

will read: “The two countries agree to”

(c) The Preamble, (3), para 2 seems to imply that the treaty of peace will provide explicitly for the stationing of U.S. troops in Japan. If so, the agreement on troop stationing would not be one arrived at after peace between the two countries on the basis a 100 percent equality. This would hurt Japanese amour propre. It is desired that the Peace Treaty will omit reference to the stationing of troops. It is suggested that the beginning of the paragraph in question of the Preamble might be changed to read: "The maintenance of international peace and security in the Japan area shall be assured by the cooperation between Japan and the United States for their mutual security until".

5. A few observations on technical points are given below. More may be submitted later.

(a) Chapt. IV, (3)

In view of the deletion of Chapt. VIII, reference to the Supreme Commander of all forces in Japan will have to be omitted. The first sentence might be made to read: "In the event of hostilities or imminently threatened hostilities, United States forces stationed in Japan shall have the authority to use such areas, installations and facilities in the Japan area as may be deemed necessary."

(b) Chapt. IV, (4)

"Native peoples of Japan" to read: "local population".

(c) Chapt. IV, (5) and elsewhere

"Security forces of the United States" to read: "United States forces."

(d) Chapt. VI, (2)

The paragraph to read: "United States forces shall customarily be garrisoned at such installations under the control of the allied occupation forces at the termination of the occupation, as agreed upon between U.S. government and Japanese government, and all such facilities or areas as required by U.S. forces and agreed to by Japanese government shall remain under the control of U.S. forces."

(e) Chapt. VI, (4)

A stipulation to be added for the "establishment of an organ composed of representatives of the two countries to carry out joint investigation and to determine the amount of compensation," as has been suggested under (8) of the Japanese proposal of February 1.

(f) Chapt. VI, (5), on

Further Description of Rights.

The first paragraph to read: "It is mutually agreed that the United States shall have the rights, power and authority within the installations which are necessary for the establishment, use, operation and defense thereof or appropriate for the control thereof and all the rights, power and authority within the limits of territorial waters and air space adjacent to, or in the vicinity of, installations or areas which are necessary to provide access to them, or appropriate for their control."

(g) Chapt. VI, (10)

To be deleted.

(h) Chapt. IX

A paragraph to be added on ratification provisions.

Japanese Proposal

We propose that the Committee provided for in Chapt. VII of the Draft Agreement be made the central organ for the operation of the agreement.

The Committee will take charge of all affairs relating to the Japanese-American cooperation for mutual security.

It will study and formulate all plans and measures required for rearmament and for coping with any situation that may occur—emergency, or war.

It will deliberate on the matters concerning sites, facilities, expenses, and status of garrison troops.

The establishment of such a committee will make it possible to leave out (3), (4) from Chapt. IV and (5), and (9) from Chapt. VI of the draft Agreement, and produce a clear, concise and simple instrument, which will be more acceptable to the Japanese people.

The above-mentioned plans and measures for rearmament, etc., formulated by the committee are to be kept secret, but ready for instant use.

Such arrangement would be more politic, and effective in that understanding by far more detailed and thorough than is obtainable by a formal agreement can be had between the two countries on the question of security cooperation.

February 3, 1951

付録 21 (その1)

相互の安全のための日米協力協定(案)に対する意見

(1951, 2, 2)

1. この協定は早急に締結しなければならぬ。日本が軍備をもち、また、交戦者となることを予想する規定は、対外的に問題であり、とくに国内的に重大且つ複雑な問題を惹起して協定の早急締結を阻害する。かような条項は協定から削除するのが賢明である。しかしこれは、日本が軍備をもち、また、交戦者となることを拒否することを意味するものではない。

この見地から、第8章は削除する。

2. 平和条約の締結による占領終了から日本国民は物心両面におけるある程度の負担の軽減を予期している。現存事態が平和条約締結後もそのまま受けつがれて永続するという印象を与えることがないようにしなければならない。

(イ) 日本が米国に供与する権利、特権、権威、便宜等を詳細に羅列しないこと。

(ロ) 駐屯軍が使用することのできる施設や地域を駐屯の目的に必要なものに限定すること。なるべく両国の合意によつて定むるようにすること。

(ハ) 「防衛地域」の用語は、従来あつた要害地帯のような広汎な地域を指すような印象を与える。これは合衆国の意図ではないと思われるから、この用語を避けること。

3. 協定の内容は、両国の合意に基づくという原則を貫きたい。

この見地から、

(イ) 前文で「憲章第43条の特別協定が合衆国にアクセプタブル……」となつていてのを、日米両国にアクセプタブルと改めたい。

(ロ) 第4章(1)に「……日本領域内における米国軍の駐屯を日本は要請し合衆国は同意する」とある。これを「日本及び米国は日本領域内に米国軍が駐屯することに合意した」(Japan and America agree that the United States forces will be stationed within the Japanese territory) としたい。日本が米国軍に駐屯してもらいたいということが真理であるとおなじく、米国が日本に駐兵したいことも真理であると思う。5分5分のところであるから「両国は合意した」とするのが本当である。

(178)

(ハ) 第9章の協定の有効期間について「日本地域における国際の平和と安全が国際連合又はその他の方法で満足に確保されると合衆国が認めるまで」ということになっている。これは、日米両国によつてそう判定されるまでとしたい。

4. 前文(3)によると、平和条約に米国軍隊が日本に駐屯することを明記する考案であると了解する。こうなると米国の日本駐兵は平和条約による駐兵ということになる。平和条約後における米国の日本駐兵が100パーセント日米両国の平等の立場に立つての合意に基づくということにならない。

これは日本国民のアムール・プロプルに反する。

この見地から、平和条約に米国軍隊の日本駐屯を明定することを避けたい。従つて協定前文(3)の第2パラグラフに……both governments agreed in the treaty of peace that armed forces of the United States shall remain in the Japan area for this purpose……とあるのを The maintenance of international peace and security in the Japan area shall be assured by the cooperation between Japan and the United States for their mutual security until……の趣旨に改めたい。

5. 技術的諸点について、取敢えず、左の意見を述べる。

詳細については、更に検討の上後日申し出ることを留保したい。

(イ) 第4章(3)……the Supreme Commander of all forces in Japan, designated in accordance with par 2/Chap 8 infra,……as he may deem necessary. とあるのは、第8章を削除する関係上、United States forces stationed in Japan shall have the authority to use such areas, installations and facilities in the Japan area as may be deemed necessary. と改めたい。

(ロ) 第4章(4)に native peoples of Japan とあるのを local inhabitants としたい。

(ハ) 第4章(5)以下に度々 security forces of the United States とあるのを United States forces としたい。

(ニ) 第6章(2)を United States forces shall customarily be garrisoned at such installations under the control of the allied occupation forces at the termination of the occupation, as agreed upon between U.S. government and Japanese government, and all such facilities or areas as required by

(179)

U.S. forces and agreed to by Japanese government shall remain under the control of U.S. forces と改めたい。

(g) 第6章(4)に日本側提案の(8)にサヂェストされてある establishment of an organ composed of representatives of the two countries to carry out joint investigation and to determine the amount of compensation を規定することを提案する。

(h) 第6章(5)の第1パラグラフを次のように改めたい。

“It is mutually agreed that the United States shall have the rights, power and authority within the installations which are necessary for the establishment, use, operation and defense thereof or appropriate for the control thereof and all the rights, power and authority within the limits of territorial waters and air space adjacent to, or in the vicinity of, installations or areas which are necessary to provide access to them, or appropriate for their control.”

(i) 第6章(h)を削除する。

(j) 第9章に批准条項を附加する。

注、

第5章に米案には、日本政府が自己の経費で提供すべき援助について詳細が欲しいと記されているが、この点は、駐屯軍が使用する installation, facilities, area などが日米間の協議によって定まることが先決要件である。

6. 日本側の構想にあり、また、協定の第7章に採り入れられている共同委員会を大いに活用したい。すなわち、同委員会に日米の相互安全のための協力に関する一切の事項とくに再軍備計画や緊急事態又は戦争の場合に対処するための措置について徹底的に研究して計画をたてさせると共に駐屯軍の場所、施設、経費、ステータスについても考究させることとする。こうすることによって、数多の条項（例えば第6章の(3)、(5)、(6)、(9)）は協定から除去し、協定自体をスッキリしたものとなしたい。さすれば、協定は日本国民にとって甚だうけいられやすくなるであろう。

前記の再軍備の計画や非常事態又は戦時において両国によつてとらるべき措置は、共同委員会によつて詳細作成されて機密としておかるべきである。こうすることが、政治的に賢明であると共に協定案より更に徹底した了解を両国間に用意しておくことができて、必要事態が起つた場合に、対処しやすいであろう。

(注) 6項は、2月3日に総理の指示によつて追加されたものである。(1967. 5. 31 西村)

(その2)

相互安全のための日米協力協定(案)に対する意見の要旨

1. 日本が軍備をもち、また、交戦者となることを予想する規定は、対外的に問題であり、とくに国内的に問題を惹起して協定の早急な締結を阻害する。かような条項を削除したい。しかし、これは、日本が軍備をもち、また、交戦者となることを拒否することを意味しない。

この見地から、第8章を削除する。

2. 占領終了から日本国民は、物心両面においてある程度の負担の軽減を予期している。現存事態が平和条約締結後もそのまま受けつがれて永続するという印象を与えないようにしなければならぬ。

この見地から、

(i) 日本が米国に供与する権利、特権、権力、権威、便宜などを詳しく羅列しないこと。

(ii) 米軍の使用する施設や地域を駐屯の目的に必要なものに限り、両国合意できめること。

(iii) 「防衛地域」なる用語は、日本人に要塞地帯のような広い地域を連想させる。他の語を使いたい。

3. 協定の内容は、両国の合意に基づくという原則をつらぬきたい。

この見地から、

(i) 前文で「憲章第43条の特別協定が合衆国にアクセプタブル……」となつていものを「日米両国にアクセプタブル……」と改めたい。

(ii) 第4章の「……米国軍の駐屯を日本は要請し合衆国は同意する」とあるのは「……米国軍の駐屯に両国は合意した」としたい。

(iii) 第9章の協定の有効期間について、「日本地域における国際の平和と安全が国際連合又はその他の方法で満足に確保されると合衆国が認めるまで」とあるを、「日米両国によつてそう判定されるまで」としたい。

4. 前文(3)によると平和条約に米国軍隊が日本に駐屯することを明記する考案のようである。すると、米国の日本駐兵は、平和条約による駐兵となる。駐兵は、両国平等の立場に立つての合意に基かなくなり、国民のアムール・プロプルが毀損される。

この見地から、「日本区域における国際の平和と安全は……相互の安全のための両国の協力によつて確保される」という趣旨にしたい。

5. 別に技術的諸点(9つ)(注)について意見をのぶ。

なお、経費の点について、先方は、日本が自己の経費で提供する援助について詳細がほしいといっているに対しては、駐屯軍が使用する建造物、施設、地域などが日米間の合意できまらねばだせぬという意味を答える。

(注)「9つ」は「8つ」とあるべきものと思われる(1967. 5. 31 西村)

付録 22 1951年2月3日夕先方に交付した「Initial Steps for Rearmament Program」

Initial Steps for Rearmament Program.

Simultaneously with the coming into force of the Peace Treaty and the Japanese-American Security Cooperation Agreement it will be necessary for Japan to embark upon a program of rearmament. The following are the principal features of this program contemplated by the Japanese government.

(a) Security forces, land and sea, totalling 50,000, will be created apart from the existing police forces and the National Police Reserve. These security forces will be specially trained and more powerfully equipped, and placed under the proposed Ministry of National Security. The 50,000, men will mark the start of Japan's new democratic armed forces.

(b) What might be termed a "Security Planning Headquarters" will be set up in the National Security Ministry. Experts, conversant with American and British military affairs, will be assigned to this Headquarters; they will participate in the activities of the Joint Committee to be established under the Japanese-American Security Cooperation Agreement, and they will constitute the nucleus for the future General Staff of Japan's democratic armed forces. The government will seek the advice of American military experts (soldiers).

February 3, 1951

付録 23 1951年2月5日先方に交付した掠奪財産と在日連合国財産に関するわが方の要請

Looted Property.

The time limit set by the Far Eastern Commission has already expired. Moreover, restitution has been nearly completed. Since there is some time yet before the conclusion of peace, it is believed that by then any pending case will have been settled.

It is desired therefore that the Peace Treaty will merely confirm the settlement of the problem.

Allied Property.

We are anxious to complete restitution as soon as possible. We propose that:

All claims be filed within six months after the signing of the peace treaty; and all disputes settled by an arbitration commission, whose decision shall be final.

付録 24 1951年2月5日先方に交付したわが国の軍事生産力に関する資料

—— 付・通産省作成の資料原案 ——

The figures are merely indications, there exist, of course, no precise data.

Annual Munitions Production Capacity of the Existing Plants.

1. Air planes		3,000—6,000
Former Nakajima Plants	1,000	
Former Mitsubishi Plants	800	
Others	1,200	
(No arsenal)		
2. Ordnances		Over 3,500 pieces
Japan Steel	3,000	
Kobe Steel	400—500	
Others	200—300	
(No arsenal)		

3. Machine guns Circa 60,000
- | | |
|------------------------------------|---------|
| Nippei Industry | 15,000 |
| Chuo Industry | 8,000 |
| Japan Steel | 12,000 |
| (Arsenals, Yokosuka and elsewhere. | 25,000) |
4. Rifles Over 70,000
- | | |
|--------------------|---------|
| Toyo Industry | 60,000 |
| Tokyo Juki | 10,000 |
| Others | unknown |
| (Arsenals unknown) | |
5. Tanks Over 1,000
- | | |
|--|-----|
| Hino Heavy Industry | 500 |
| Hitachi Kameari Plant | 500 |
| Kobe Steel, etc. some | |
| Former Mitsubishi Maruko Plant (War-time daily production 100. Present capacity—unknown) | |
6. Naval craft
- Arsenals and private facilities of war-time are almost all extant, with their war-time production capacity practically intact.
- Naval shipyards: Yokosuka*, Kure*, and Saseho.
- Private shipyards:
- Mitsubishi, at Nagasaki* and Kobe.
- Kawasaki, at Uruga*.
- Ishikawajima, at Fuji Nagata.
- *can make larger craft.
- Notes: 1. Minimum of 6 months will be required before production starts.
2. All machines for making vital weapon parts are destroyed, and must be procured anew.
3. Capacity is based on old Japanese standards.
4. There exists production capacity for auxiliary items and ammunitions to match the above.

February 1, 1951.

(184)

前 略

昨夜御依頼した翻訳案同封しました。白洲氏と連絡して進めて下さい

1月31日

小 畑 様

永 山

日本の旧兵器製造工場の活用について

日本の機械工場は現在其の能力の概ね60%程度の稼働状態であつて、尚大幅に活用の余地を存するのみならず、機械製作の経験も相当豊富であつて、兵器其の他一般機器の製作には、大きな寄与をなし得るものと思われる。兵器に付て観るに戦争中及占領後設備及建物は相当広汎に破壊され或は民需に転換をされて来たが現在若干の補強を行つて利用し得る能力は概ね別表(1)の程度と推定される(兵器製造能力に付ては、戦時中の資料は全て散逸し其の後は組織的に調査して居ないので本推定も不完全なものであることを了承されたい。)

我々は民主主義国家群の一翼として共産主義陣営の暴力政策を最も嫌悪するものであるが之等工場能力の活用に依り貴国の軍需生産に協力の機会を与へられるならば、我々の国連協力の素志を実現する所以であり我国経済の復興の上にも寄与する所多大であつて我々の最も希求する所である。

(注 この文書は先方に提出しなかつた。1967. 6. 21 西村記)

兵器生産能力(現在)推定表(年間)

1. 航空機 3,000機乃至6,000機

旧中島関係 1,000

旧三菱関係 800

其の他 1,200

(工廠なし)

2. 火 砲 約3,500門以上

日本製鋼 3,000

神 戸 4~500門

其の他 2~300門

(工廠なし)

(185)

3. 機 銃	約 60,000挺
日平産業	15,000
中央工業	8,000
日本製鋼	12,000
計	35,000

(工廠横須賀佐世保其の他計25,000)

4. 小 銃	70,000挺以上
東洋工業	60,000
東京重機	10,000
其の他	不明

(工廠分不明)

5. 戦 車	1,000台以上
--------	----------

日野重工 500

日立亀有 500

神戸製鋼其の他若干

旧三菱丸子(戦時日産100台は不明)

6. 艦 艇

工廠、民間工場とも戦時の施設は殆んど残存しているから戦時中の能力に近い

(○横須賀、○呉、佐世保)

以上 工廠

(○三菱長崎、神戸、横浜、○川重、浦賀)

(石川島、藤永田)

以上 民間工場

○印は大形艦艇も建造可能である

注 1. 生産開始迄に最小6ヵ月を要する

1. 兵器の要部を製造する機械は全部破壊されているから新規補充を要する

1. 能力は旧日本規格による

1. 附属品及び弾薬は右に相応する程度に製作能力あり

付録 25 1951年2月5日先方に交付したわが国の主要産業の余剰生産力に関する資料

—— 付. 通産省作成の資料原案 ——

Surplus Production Capacities on Monthly Bases of

Commodity	Unit	Actual Production (as of Nov. 1950)	Current operable capacity	Capacity achievable by the end of 1951	Production Programme of 1951	Remarks
Steel ingot	M.T	473,038	725,000	926,000		Capacity achievable includes special
Ordinary Steel (rolled)	"	334,911	538,000	820,000	333,000	
Special steel (rolled)	"	9,266			6,650	
Copper (refined)	"	7,729	8,290	8,290	1,540	
Lead (refined)	"	1,656	2,880	2,880	2,740	
Aluminum	"	2,451	3,170	5,836		In terms of 2mm thickness.
Sheet glass	10 ³ sq. ft.	366,000	386,000	467,000	350,000	
Cement	M.T	465,000	480,000	597,000	442,000	Total of ammonium and electrolysis methods.
Carbide	"	42,104		82,000	50,000	
Caustic soda	"	20,094	38,100	45,200	25,000	
Soda ash	"	18,171	24,000	26,000	18,330	
Glycerine	"	492	1,834	2,075	817	
Rubber products	"	6,388	10,102	10,612	3,000	In terms of crude rubber.

日本の主要資材生産余力（1951年1月15日通産省調）
主要資材生産能力表（月間）

物 資 名	単 位	生 産 実 績 (昭和25年11月)	実 稼 動 力	1 年 内 達 成 可 能 生 産 能 力	昭和26年度 生 産 計 画	○印は余力あるもの 備 考
石 炭	10 ³ M. T	3,342	3,500	3,583	3,460	
鉄 鉱 石	M. T	38,682		41,660	41,660	
銅	"	3,510		3,830	4,600	金 属 換 算
鉛	"	1,015		1,125	1,125	"
亜鉛	"	4,955		5,500	5,500	"
硫化	"	177,187		183,300	185,300	
原油	千 杆	27,372		28,333	28,333	
錫	kg	37,358		40,000	40,000	金 属 換 算
水 銀	kg	3,505		9,000	8,350	"
マンガン	M. T	4,371		4,460	4,460	
鉄 錠	"	207,848	383,000	509,000	284,400	
○鋼 塊	"	473,038	725,000	926,000		
○普通鋼々材(圧延)	" }	334,911	538,000	820,000	333,000	達成生産能力中 ニハ特殊鋼圧延 能力ヲ含ム
○特殊鋼々材(圧延)	" }	9,266				
○鋼 (精錬)	"	7,729	8,290	8,290	6,650	
○鉛 (精錬)	"	1,656	2,880	2,880	1,540	
亜 鉛	"	4,511	4,985	5,670	4,870	電 気 亜 鉛 } 合 計 蒸 留 "
錫	"	28	90	90		

(188)

水 銀	kg	2,618	12,000	12,000		
○アルミニウム	M. T	2,451	3,170	5,836	2,740	
○板 硝 子	10 ³ sq. ft	366,000	386,000	467,000	350,000	2 mm 厚 換 算
○セメン ト	M. T	465,000	480,000	597,000	442,000	
綿 糸	10 ³ L.B.S	53,952	53,952	58,842	58,400	
絹 紡 糸	"	1,153	1,272	1,272		
ス フ 糸	"	7,671	10,295	21,450	19,160	
人 絹 糸	"	10,208	12,342	13,992	10,820	
毛 紡 糸	10 ³ L.B.S	5,020	5,947	6,500	7,160	
○カーバイド	M. T	42,104		82,000	50,000	
○苛性ソーダ	"	20,094	38,100	45,200	25,000	了 法、電 解 法 合 計
○ソーダ 灰	"	18,171	24,000	26,000	18,330	
硫 酸	"	289,881		316,000	312,000	
硫 安	"	125,900	185,000	198,700	146,000	
石灰 壁 素	"	38,550	52,500	52,500	37,500	
過 燐 酸 石 灰	"	122,000	198,000	198,000	136,000	
コーク ス	10 ³ M. T	366	600	620		
フェータル	M. T	28,130	53,950	66,680		
脂 肪 酸	"	4,419	13,000	16,730	9,160	
硬 化 油	"	5,198	12,000	12,000	2,620	
○グリセリン	"	492	1,834	2,075	817	

(189)

石 け ん	M. T	8,897	50,000	50,000	13,430
塗料ベイント	"	7,339	10,990	16,486	7,280
紙	Short ton	90,178	151,000	151,000	93,000
S.	"	22,769	33,000	27,000	27,000
R.	"	10,186	21,000	16,000	12,000
○マム製品	M. T	6,388	10,102	10,612	3,000

実稼働能力分ニ
ハ、S. P. 生産能
力ヲ含ム
生コム量ニテ示
ス

注 本表の生産能力は電力の供給力及原材料の供給能力を度外視し、設備の能力そのものを基礎にして計上したものである。

(190)

機械工業能力調査表

機 種 名		() は百万円		
項 目	単 位	設 備 能 力 月 平 均	最 近 1 ヶ 月 の 生 産 実 績	余 力
工 作 機 械	屯	× 1,200 △ (180)	377 △ (62.4)	823 (117.6)
軸 受	"	929 (468)	362 (217)	567 (251)
一 般 工 具	"	169 (180)	119 (65)	50 (115)
超 硬 工 具	珎	6,142 (76)	3,020 (33)	3,122 (43)
標 準 電 動 機	台	40,000 (640)	15,740 (215)	24,260 (425)
〃 変 圧 機	"	16,600 (345)	8,591 (115)	8,009 (230)
注 文 機 械	百万円	(1,920)	(832.5)	(1,087.5)
蓄 電 池	屯	1,666 (666)	807 (225.6)	859 (440.4)
乾 電 池	千 個	10,000 (300)	9,392 (233)	608 (67)
電 球	"	27,166 (388)	16,163 (345.5)	11,003 (42.5)
鉦 山 機 械	屯	4,000 (320)	2,538 (210)	1,462 (110)
運 搬 機 械	"	4,000 (360)	3,139 (260)	861 (100)
風 水 力 機 械	"	3,333 (400)	1,599 (225)	1,734 (175)
織 維 機 械	"	15,000 (1,800)	12,719 (1,637)	2,281 (163)
化 学 機 械	"	9,600 (1,070)	7,692 (868)	1,908 (202)
土 木 機 械	"	2,660 (362)	1,496 (206)	1,164 (156)
ボ イ ラ ー	"	4,000 (356)	1,350 (133)	2,650 (223)
タ ー ビ ン	"	1,000 (380)	454 (150)	546 (230)
光 学 機 械	千 個	1,800 (350)	1,498 (252.7)	302 (97.3)
時 計	"	300 (282)	159.9 (167)	104.1 (115)
普通車シャーシー	台	3,000 (1,640)	2,324 (1,365)	676 (275)

(191)

小 型 四 輪 車	〃	1,250 (460)	994 (312)	256 (148)
大 型 車	〃	280 (363)	247 (259)	33 (104)
三 輪 車	〃	5,160 (750)	3,374 (520)	1,786 (230)
陸 用 内 燃 機	馬 力	44,400 (3,701)	25,294 (213)	19,106 (3,488)
産 業 車 輪	台	6,824 (238)	2,305 (88)	4,519 (150)
鋳 型	屯	15,000 (523)	10,555 (369)	4,445 (154)
ロ ー ル	〃	5,950 (304)	4,816 (245)	1,134 (59)
製 鉄 機 械	〃	280 (22)	148 (11.6)	132 (10.4)
鍛 圧 機 械	〃	1,500 (165)	1,090 (120)	410 (45)
電 話 器	台	47,000	44,000	3,000
真 空 管	千 個	1,610 (175)	1,035 (101)	575 (74)

付録 26 1951 年 2 月 5 日先方に交付したわが国の船舶および造船
に関する資料

Japanese Shipping

Before the war Japan had about 6,000,000 tons, most of which consisted in ocean going ships.

Today we have 152 vessels (including tankers), totaling 1,760,000 tons, most of which are unfit for service on foreign routes.

International classified ships in possession of Japan today:

43 cargo boats (439,000 tons)

10 tankers (97,000 tons)

These ships carried altogether 20-25% of Japanese imports and exports in 1950.

Ship building.

Construction of 39 ships (28,000 tons) was started in 1949; of 39 ships (24,000 tons) in 1950.

28 war-time standard ships are being remodelled for ocean service.

It is expected Japan will have:

By March end, 1951.

Cargo boats, 106 (567,000 tons)

(192)

Oil tankers, 16 (163,000 tons)

Total 122 (739,000 tons)

By December end, 1951.

Cargo boats, 143 (803,000 tons)

Oil tankers, 19 (200,000 tons)

Total 162 (1,003,000 tons)

The above total tonnage is far from sufficient to meet the shipping need of Japan. In 1951 only 30% of Japanese imports can be carried in Japanese bottoms.

Japan possesses ship building capacity for 450,000 tons a year. Full operation of her shipyards will help to alleviate the ship shortage.

Lease or purchase of "Liberty" or "Victory" type vessels from the United States is strongly desired.

February 1, 1951

付録 27 1951 年 2 月 5 日先方に交付した 2 月 3 日付「相互の安全
保障のための日米協力に関する協定案」にたいするオブザ
ベーションの正誤と追加

Additions to the Observations on the Agreement concerning Japanese-
American Cooperation for Mutual Security, dated February 3, 1951.

1. Correction.

Page 5, Para. 5.

"(3), (5), (6) and (9) from Chapt. VI" should read: (3) and (4) from Chapt. VI and (5) and (9) from Chapt. VI.

2. Additional Observation.

Chapt. VI, (9).

It is desired the phrase "Jurisdiction over Defense Areas," etc. be changed to "Control over Security Areas" etc.

The draft, as it stands, would seem to indicate exclusion of Japanese territorial sovereignty, which does not fit in with the character of the present agreement.

We have of course no objection to United States exercising exclusive jurisdiction over the American military and civilian personnel and their families within the areas.

We suggest that the Paragraph be revised to read: "(9) The United States shall have exclusive control over all installations and

(193)

security areas in Japan utilized by United States forces, and exclusive jurisdiction over the military and civilian personnel of the government of the United States and their families within the said installations or defense areas, as well as over all other persons within such areas except Japanese citizens.”

As regards the question of jurisdiction over other matters should be determined according to the principle of International law. The American-Philippine Agreement and American-British Agreement on military bases provide minute stipulations, on the basis of which we have drawn up tentative provisions for our purpose. But it is considered best to leave the entire matter to the Joint Committee.

付録 28 1951年2月5日午前先方から受領した「仮覚書」

SECRET

February 3, 1951

PROVISIONAL MEMORANDUM

Subject to further consideration and subject to further consultation with the interested Parties, the United States contemplates a peace treaty along the following lines:

Preamble

The Preamble would record the determination of the Allies and of Japan henceforth to order their relations on a basis of friendly cooperation as sovereign equals. Japan would indicate her intention to conform to the principles of the United Nations Charter; to realize the high principles embodied in the United Nations Universal Declaration of Human Rights; and to develop the conditions of stability and well-being envisaged by Article 55 of the United Nations Charter, and already initiated by post-war Japanese legislation. Japan accordingly would intend to apply for membership in the United Nations and the Allies would welcome that intention.

Peace

The state of war between the Allies and Japan would be pronounced at an end.

Sovereignty

The Allies would recognize the full sovereignty of the Japanese people and their elected representatives over Japanese territory.

(194)

Territory

Japan would renounce all rights and titles to Korea, Formosa and the Pescadores, and accept a United Nations trusteeship with the United States as administering authority over the Ryukyu Islands south of 29° north latitude, the Bonin Islands, including Rosario Island, the Volcano Islands Parece Vela and Marcus Island. The United States would retain control of these islands pending approval by the United Nations of the trusteeship agreement or agreements. Japan would further renounce all rights, titles and claims deriving from the mandate system and from the activities of Japanese nationals in the Antarctic area.

Security

Japan as a prospective member of the United Nations would accept in advance the obligations of Article 2 of the Charter, and the other parties would undertake reciprocally to be guided by those same principles with relation to Japan. The Allies would recognize that Japan as a sovereign nation possesses what the Charter refers to as “the inherent right of individual or collective self-defense”, and would agree that Japan might voluntarily enter into a collective security arrangement or arrangements participated in by one or more of them. Such arrangements would be designed solely for defense against armed attack from without, and any forces contributed by any Allied nation pursuant thereto would not have any responsibility or authority to intervene in the internal affairs of Japan. Assistance given at the express request of the Japanese Government to put down large-scale internal riots and disturbances in Japan would not be deemed intervention in the internal affairs of Japan. Japan would agree not to permit any foreign nation to have military facilities in Japan except pursuant to actions or recommendations of the United Nations or to a collective security arrangement or arrangements referred to above.

Political and Economic Clauses

(a) Japan would agree to adhere to existing multilateral treaties designed to prevent the misuse of narcotics and to conserve fish and wildlife.

(b) Japan would agree to enter promptly into negotiations with parties so desiring for the formulation of new bilateral or multilateral agreements for the regulations, conservation and development of high seas fisheries.

(c) Each of the Allies would agree to notify Japan within a year of the effective date of the treaty which of its pre-war bilateral non-political treaties with Japan it wished to keep in force.

(d) Japan would renounce all special rights and interests in China.

(e) The power to grant clemency, reduce sentences, parole and pardon

(195)

with respect to war criminals incarcerated in Japan would be exercised jointly by Japan and the Government or Governments which imposed the sentences in each instance and, in the case of persons sentenced by the International Military Tribunal for the Far East, by Japan and a majority of the Governments represented on the Tribunal.

(f) Pending the conclusion of new commercial treaties or agreements, Japan, during a period of three years, would (1) extend most-favored-nation treatment to each of the Allies in all matters pertaining to the importation and exportation of goods, and (2) accord national treatment or most-favored-nation treatment, whichever is more favorable, with respect to the commercial vessels, nationals and companies of the Allies and their property, interests and business activities in Japan. Japan would be entitled to withhold from any Allied nation more favorable treatment in respect to any of the above matters than that nation, subject to the exceptions customarily included in its commercial agreement, was willing to accord it in that respect. Japan would also be entitled to apply measures dictated by its balance-of-payments position or by its essential security requirements, and to reserve the exceptions customarily contained in commercial agreements. "National treatment" would not be deemed to include Japanese coastal and inland navigation. Pending the conclusion of civil air transport agreements, Japan, during a period of three years, would extend to each of the Allies not less favorable civil air traffic rights and privileges than those they enjoyed at the time of the coming into force of the treaty.

Claims Arising Out of the War

All parties would waive claims arising out of acts taken during the war prior to September 2, 1945, except that (1) each of the Allied and Associated Powers would retain and dispose of Japanese property within its territories, except diplomatic and consular property and a few other limited categories; and (2) Japan would restore, upon demand, Allied property in Japan, or, if such property, whether or not taken under the control of the Japanese Government, is not restorable intact, would provide yen to compensate for the lost value. (An elaboration of these two exceptions is provided in Annex I.) Japan would waive all claims arising out of the presence of the Occupation forces in Japan since surrender.

Settlement of Disputes

Disputes concerning the interpretation or execution of the treaty not settled through the diplomatic channel would be referred for decision to the International Court of Justice, all of the treaty signatories undertaking to comply with the decisions of the Court. A specially established Arbitral

Tribunal appointed by the President of the International Court of Justice from nationals of countries which were neutral in World War II would settle claims disputes. (An elaboration of these provisions will be found in Annex II.)

Final Clauses

(a) The right of adherence to the treaty would be extended to any nation at war or in a state of belligerency with Japan which had not been an original signatory thereto.

(b) The treaty would not confer any rights or benefits upon any state which did not execute and ratify or adhere to it, and Japan would not make a peace settlement with any other state which would grant that state advantages not granted to the parties to the treaty herein described.

General Observation

It is to be observed that if peace were made along the foregoing lines, it would involve a very complete restoration of sovereignty to Japan free of onerous restrictions. Japan would express its intention to maintain and advance the high purposes, principles and standards of the post-surrender years, but would not be subjected to treaty compulsions in these respects. There would be no restrictions upon Japan's right to rearm. The Allies would demand no reparations either out of the industrial assets, current production or gold stocks. There would be no continuing right to reclaim looted property. There would be no treaty restrictions upon Japan's commercial activity, including shipbuilding and fishing, other than such as Japan may voluntarily adopt in the interest of promoting international good will. The Allies' right to "most-favored-nation" commercial treatment would be dependent upon reciprocity on their part. The question of any repayment of Garioa indebtedness of some \$2,000,000,000 is not made a matter of treaty compulsion, but left for mutual adjustment.

With respect to all of these matters, there is very considerable difference of opinion as between the Allies and there is within the United States a considerable body of opinion which questions the desirability of the kind of peace which is here outlined.

It may be that public opinion either within the United States or within the Allied Powers may render it necessary, in order to get peace, to add certain restrictions and burdens not enumerated in the above outline of projected treaty and it is suggested that the Japanese Government, in dealing with the people of Japan, should avoid giving any impression that it can now be taken for granted that the final treaty will be free of restrictions and burdens of the character mentioned in these General Observations.

ANNEX I.

Elaboration of Exceptions to General Waiver of War Claims

I. Each of the Allies would have the right to retain and dispose of all property, rights and interests of Japan and Japanese nationals within its territory at any time between December 7, 1941 and the coming into force of the treaty, except (a) property of Japanese nationals permitted to reside in the territory of one of the Allies, except property subjected to special measures prior to September 2, 1945; (b) tangible diplomatic or consular property, net of any expenses incident to its preservation; (c) property of non-political religious, charitable, cultural or educational institutions; (d) property located in Japan, despite the presence elsewhere of paper or similar evidence of right, title or interest in such property, or any debt claim with respect thereto; and (e) trade-marks identifying products originating in Japan.

II. (a) Japan would restore, upon demand, within six months from the effective date of the treaty, the property, tangible and intangible, and all rights or interests of any kind in property, in Japan of the Allies and their nationals, unless the owner had freely disposed of his property without duress or fraud, and, to the extent that such property and interests, whether or not taken under the control of the Japanese Government, had been lost or damaged as a result of the war, would make compensation in yen equal to the amount necessary at the time of coming into force of the treaty (1) to purchase similar property, or (2) to restore the property to its condition on December 7, 1941. Compensation would not be made to persons whose activities and property were not subjected to special Japanese wartime restrictions applicable to Allied nationals generally. Claims of each of the Allied and Associated Powers and their nationals for compensation would be presented by its Government to the Japanese Government within eighteen months from the effective date of this treaty.

(b) If agreement on compensation should not be reached within six months after the filing of a claim, either of the governments concerned might refer the matter to the Arbitral Tribunal provided for in the treaty (see Annex II).

(c) Rights or interests in property would include directly and indirectly held ownership interests in juridical entities which were not nationals of an Allied Power, but which had suffered loss of or damage to property in Japan as a result of the war. Compensation with respect to such loss or damage would bear the same proportion to compensation payable to an owner

under sub-paragraph (a) as the beneficial interests of such nationals in the corporation or association bore to the total capital thereof.

(d) Compensation in yen would be made in four equal annual installments without interest and if the total of allowed claims exceeds 40 thousand million yen, there would be a pro rata reduction so that the total would be that amount. The yen paid by way of compensation would not be convertible into foreign exchange except in accordance with Japanese foreign exchange regulations. Compensation payments in respect to agreed claims would begin without awaiting final adjudication of contested claims.

ANNEX II.

Elaboration of Disputes ProvisionsInterpretation or Execution

Any dispute between an Allied Government and Japan concerning the interpretation or execution of the treaty which is not settled through diplomatic channels would, at the request of a party to the dispute, and without special agreement, be referred for decision to the International Court of Justice. Japan and those Allied Powers which were not already parties to the Statute of the International Court of Justice would deposit with the Registrar of the International Court of Justice, on the date of the deposit of their ratification of the treaty, a general declaration accepting the jurisdiction, without special agreement, of the Court generally in respect of all disputes of the character referred to in this paragraph.

Claims

Disputes between an Allied Government and Japan in connection with claims matters which are not settled through the diplomatic channel or otherwise could be referred by either party to an Arbitral Tribunal, consisting of three jurists to be designated by the President of the International Court of Justice on request of the depository government made within three months from the effective date of the treaty. The designations would be made from nationals of countries which were neutral in World War II. Vacancies on the Tribunal would similarly be filled by designation by the President of the International Court of Justice upon request of the depository government. Decisions of the Tribunal would be by majority vote and would be final and binding.

The salaries of the members of the Arbitral Tribunal would be fixed by the President of the International Court of Justice, in consultation with the Government of Japan. The Government of Japan would pay the costs and

expenses of the proceedings, including salaries of members and employees of the Tribunal, but not including costs incurred by other governments in the preparation and presentation of cases.

The authority of the Tribunal, and the terms of office of its members, would terminate at the expiration of ten years from the effective date of the treaty, unless Japan and a majority of the Allies agreed to fix an earlier or later termination date.

付録 29 1951年2月5日の会談メモ

2月5日午前10時半ないし11時半外交局にて、

ダレス、アリソン、フェアリー

井口、西村

- 1 当方より持参の掠奪財産、生産力に関する文書（軍事工業力、主要産業の余剰生産力、船舶）と3日夕先方に提出したる日米協力協定案に対する意見の正誤と追加を手交す。
- 2 掠奪財産について、ダレスより、当方の申述せる事情を了解せるが、在日連合国財産については、条約実施後18ヵ月位の申請期間をおく必要あるべきかと思うといい、フェアリーより掠奪財産について条約には言及しない方式はどう思うかとの質問あり。当方より、返還完了を確認することができれば、それにて結構なりと答えおきたり。
- 3 ダレスより、先日の漁業問題に対する当方の提案は、まことに結構にて米国関係者の好感を招きたり。提案の趣旨を総理とダレスとの間の書簡にてとりかわしおきたしという。当方、異存なしと答う。
- 4 次いで、日米協力協定に対する当方の提出せる文書については、なお研究中なれば明6日午前10時半よりの会合にて話し合うことにし、本日は、7原則を基礎として米国の考えおる条約の構想を認めたる文書をお渡しすべし。一緒にこれを読み、なんら質問でもあれば説明すべしとて、アリソン、フェアリーの両人と当方にて、これを通読す。その際、当方より次の諸点について意見を述べおきたり。
 - (イ) 主権回復 「日本国民及びその選挙された代表者の完全な主権」とあるが、「選挙された代表者」は不要であろう。

(200)

- (ロ) 領土 南西諸島を29度以南とされたるをよろこぶ、いかなる理由によるや。
(2、3の小島は住民がもともと日本人であつて、日本に返してよろしいと思つたためと答う。)
- (ハ) 安全保障 先方より、条約に直接米軍の日本駐屯をいわぬこととせり。当方の要望にそうため、という。当方より感謝しおけり。
- (ニ) 政治経済条項 当方より(a)について麻薬に関する既存条約のほとんど全部に日本は当事国となつており、これらの条約は平和条約実施と同時に回復するものと考えおれりと述べおきたり。先方は、本項は、麻薬以外の条約をも目的とするものなりという。もちろん、規定の様式は提案どおりにて支障なきなり。
(f)の最恵国待遇及び内国民待遇に関する規定は、日本に対し片務的ならずやとただせるに、相互条件つきなり。ジャパン ウッド ビー エンタイトルド以下の文章がそれを意味すと答う。
日本が民間航空をもちうることに暗示されているをよろこぶと当方よりいえるに、先方は、条約はなんら制限的規定を設けざることによつて、日本にその権限あることを示せりと答う。
- (ホ) 戦争に基く請求権 提案に、終期は1945年9月2日と明定され、始期が明示なく、この点各連合国と問題となることもあるべきかといえるに、先方は、各連合国についてその宣戦の日をとればよろしからんと答う。
そうするとして、一番問題となるは、中国とソ連ならんが、両国ともこの条約に加わることもなからんによつて問題は回避さるべし、と当方より述べ、お互に笑う。
- 5 当方より、提示されたる草案が日本に対し極めて寛大なるを識り感銘に堪えず、勇気づけられたりとの趣旨を述べたり。
ダレスより米国の真意はそのとおりなり。されど比島などに今なお強硬なる反対があり、説得に努力すべし。また、日本の金の問題についても、他の国々は目をつけおれり。いずれにせよ、米国がかような条約を考えておる精神は、各条項及び附属の説明書を一読せらるれば了解さるべし。総理にとくと米国の真意を伝え、その趣旨を以て、日本人を啓発されるよう希望するものなることを明らかにせられたしと切言せり。

(201)

- 6 目黒に帰着後フェアリーより電話にて、先刻日本人に米国の真意徹底方を希望せるも、交付せる文書は絶対極秘に願いたし、比、濠等との関係もあり、重ねて注意ありたしと申出あり。当方より、もちろん、その心組にてゆくべしと安心させおきたり。
(2月5日午後2時記)

付録 30 1951年2月6日午前先方に交付した「仮覚書」にたいす
るわが方の意見および設問

—— 付・日本文原案 ——

February 6, 1951

On Provisional Memorandum

The American Provisional Memorandum dated February 3, 1951 has been received with profound gratification and gratitude. Observations are given below on a few minor technical points and elucidation is sought on others.

(1) Sovereignty

It is desired that the phrase “and their elected representatives” be deleted.

(2) Security

We appreciate the definite American stand that Allied forces under the collective security arrangement “would not have any responsibility or authority to intervene in the internal affairs of Japan.” But we should like to have the stipulation dropped, regarding assistance to be given in case of large-scale riots and disturbances. While it is most likely that such assistance will be asked and given, a treaty provision, anticipating that contingency, would run counter to the principle that as an independent nation Japan must rely on herself alone for the maintenance of internal peace and order. In view of the possible popular reaction against the provision, the government desires to have it omitted entirely, or have the internal riot and disturbances qualified as being caused “through instigation or intervention by outside Power or Powers.”

(3) Political and Economic Clauses

(e) It is desired a clause be inserted, putting an end to prosecution of new cases.

In this connection, American good offices are requested in order that Japanese war criminal now imprisoned abroad may be sent back and allowed to serve out their terms in Japan.

(202)

(f) “Most-favored-nation treatment” mentioned under this head is understood to mean “unconditional”. Clarification is desired on this point.

(4) Claims Arising Out of the War.

It is desired the scope will be defined of “Allied and Associated Powers”, who are to retain and dispose of Japanese property in their territories. Special consideration is requested so as to exclude those countries, which merely declared war on Japan or served diplomatic relations with her, but did not take part in actual hostilities.

(5) Annex I

II, (a) “Compensation would not be made to persons whose activities and property were not subjected to special Japanese wartime restrictions applicable to Allied nationals generally”. Is it correct to interpret the term persons as referring to Allied nationals who were residing in Japan during the war?

「仮覚書」に対するオブザーベーション原案（1951. 2. 5作成）

極めて軽微な技術的な左記の点について意見をのべ、又は、説明を与えられるよう希望する。

(1) Sovereignty の項に関し

and their elected representatives を削除されたい。

(2) Security の項に関し

駐屯軍が日本の国内事項に干渉されない旨明記せられることは感謝する所であるが、大規模の内乱の場合の駐屯軍の援助のことを特に条約上明記することは避けた方がいいと思う。

事実上、かかる場合日本政府が駐屯軍の援助を要請することは予想せられるところであるとしても、元来、国内治安に関する限りは日本政府が独力を以てその維持に当るべき責任を有することは、独立国として当然であり、たとへ大規模の内乱の場合と雖もこれが鎮圧を外国の軍隊に委託することを予想する明文規定を設けることは、国民感情に与える影響よりみて、日本政府としてはこれを避けたい。若し何等かの形においてかかる趣旨の規定の残存を希望せらるるにおいては、大規模の内乱が「外国勢力の教唆ないしこれとの協力の下に」勃発する場合の如くクォリファイされることが希ましい。

(203)

(3) Political and Economic Clauses の (e) に関し

平和条約において新しい訴追の打ち切りを規定することを御考慮願いたい。また、平和条約と直接関係はないが、現に海外にある戦争犯罪人が日本内地で服役することができるよう関係政府にごあつせんを懇請したい。

(4) Political and Economic Clauses の (f) に関し

ここにメンションされている most-favored-nation treatment は unconditional のそれを意味すると解するが、その点の解明を得たい。

(5) Claims Arising Out of the War の項に関し

その領域内にある日本資産を差押え処分することを認められている同盟及び連合国の範囲を明確にしておきたい。

日本に対し単に宣戦を布告し又は断交したのみで現実の交戦関係になかった国はふくまれないように、特別の考慮を願いたい。

(6) Annex I. Elaboration of Exceptions to General Waiver of War Claims の II. (a) について

戦争中日本に在つて、その活動及び財産について、何んら特別 (special) 制限を受けることのなかつた連合国人について、何んら Compensation の問題は起らないと解釈して差支えないと考えるが、如何。

付録 31 1951 年 2 月 6 日の会談メモ

2 月 6 日午前 10 時半ないし正午 外交局において

アリソン ジョンソン マグルーダ バブコック

井口 西村

1 日 米 協 定

日米協定案に対する我が方の意見について、アリソンより左の趣旨を述ぶ。

日本の提案は、(i)駐兵協定に対する国民感情と国会に対する関係を考慮にいれ、のみやすきものにしてほしい。(ii)再軍備とか交戦者になるとか将来の問題を協定に明示しないでほしい。(iii)占領管理の終了と平和事態の開始との間に何か変化があることを国民に解からしたい。の 3 点にあると思う。

(204)

米国は、大体日本の要望に応ずることにした。その為に、日米協力関係は、三つの文書にすることにした。

すなわち、

第 1 平和条約 これには、日本の希望どおり直接米軍の日本駐屯を明記しないで、昨 5 日交付した条約案にあるような一般的な条項をおくことにした。

第 2 日米協定 平和条約の条項に言及して、日米間の駐兵による安全保障のための協力の大綱を定めたもの。前文と 4 条よりなる簡明なもの。米国としては、長期に亘る保障義務を負うことはできない。他に有効な保障の方途が確立されるまでとしてある。

第 3 実施協定 米軍が日本において有する地位とか、特権とか、経費とか、共同委員会とか、緊急事態に対する措置とかを規定したもの。この協定は、日米ともに政府限り締結するもので、議会に付議しない。

この三者である。ふたつの協定案では、日本の希望は殆どいれてある。すなわち、

(i) 今占領軍が使用している土地建物は当然駐屯軍が使用できることとせず、両国協議してきめることにした。

(ii) 防衛地域というような文句は落した。

(iii) 日本人被害者に対する補償を迅速にするため調査と補償額の決定に日本の参加を規定した。

(iv) 共同委員会を活用したいとの希望をいれた。

(v) 原案第 8 章 (将来日本が軍隊をもつことと交戦者となることを前提としてある) の規定を大いに改めた。等々

以上の説明があつた上、先方から手交された「対日平和条約と国連憲章第 51 条によつて締結された集団的自衛のための日米協定」案を互に検討した。

前文第 1 項で「降伏文書によつて、日本は武装解除されたから」とあつたところから、「降伏文書によつて」を落してもらつた。

第 1 条の内政不介入のあとに、大規模の国内反乱及び擾乱の場合日本政府の要求に基いて米が与える援助は内政介入でないであつたところを、「第 3 国の教唆又は干渉によつて惹起された大規模の国内反乱及び擾乱」としてもらつた。

「実施協定」案は、我が方の希望がみないれてあつて、意見がない。

(205)